

實業教育関係法規

実業学務局編

禁電子式複写



\*0042736000\*

0042736-000

CZ-613-041

実業教育関係法規

文部省実業学務局・編

農業学校図書刊行会

昭和7

AHD





272  
40

文部省實業學務局編纂

# 實業教育關係法規

農業學校圖書刊行會







文部省實業學務局編纂



實業教育關係法規

農業學校圖書刊行會





272.5-40

C2  
613  
041

# 實業教育關係法規 目次

## 法 規

一	實業學校令	一
二	實業學校設置廢止規則	四
三	工業學校規程	七
四	農業學校規程	七
五	商業學校規程	七
六	商船學校規程	七
七	水產學校規程	七
八	職業學校規程	七
九	二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程	七
一〇	實業補習學校規程	七
一一	實業補習學校教員養成所令	七
一二	實業補習學校教員養成所令施行規則	七
一三	實業學校教員養成規程	七
一四	航海練習所官制	七
一五	航海練習所規程	七





- 一六 私立學校令..... 六九
- 一七 私立學校令施行規則..... 七二
- 一八 中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ設クルノ件..... 七四
- 一九 實業學校卒業程度檢定規程..... 七六
- 二〇 公立學校職員制..... 八一
- 二一 公立學校職員待遇官等等級令..... 八六
- 二二 公立學校職員待遇官等等級令第二條但書ノ規定ニ依ル指定學校..... 八九
- 二三 公立學校職員俸給令..... 九〇
- 二四 公立學校職員年功加俸國庫補助法..... 九七
- 二五 公立學校職員年功加俸令..... 九八
- 二六 公立學校職員年功加俸ニ關スル規程..... 一〇一
- 二七 公立學校職員年功加俸令ノ適用ヲ受クル職員規定..... 一〇六
- 二八 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程..... 一〇七
- 二九 公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定..... 一〇
- 三〇 教員免許令..... 一一四
- 三一 實業學校教員檢定ニ關スル規定..... 一二六

訓 令

- 一 實業學校諸規程中改正ノ要旨並施行上ノ注意事項..... 一二五
- 二 實業學校修身教授要目..... 一三三
- 三 實業學校公民科教授要目..... 一三五

通 牒

- 一 實業學校學則ニ關スル件依命通牒..... 一三九
- 二 實業學校ノ修業年限、入學資格並學科ノ變更ニ關スル件依命通牒..... 一四〇
- 三 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程中改正ニ付依命通牒..... 一四一
- 四 小學校卒業者ノ上級學校入學ニ關スル件依命通牒..... 一四三
- 五 實業學校設置書類進達期日ニ關スル件依命通牒..... 一四四



# 實業學校令

明治三十二年二月七日  
勅令第二十九號

改正  
明治三十五年一三二  
號、三六年六二號、  
大正九年五六四號



第一條 實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ徳性ノ涵養  
ニ力ムヘキモノトス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校水産學校其ノ他實業教育ヲ爲ス學校  
及實業補習學校トス

第三條 實業學校ハ農林學校ト看做ス  
第四條 實業學校ニ付テハ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

第五條 實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

第六條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得  
第七條 文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ北海道又ハ府縣ニ命スルコトヲ得

第八條 郡市町村、北海道沖繩縣ノ區、北海道ノ一級町村二級町村、市町村學校組合及町村學校組  
合ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ實業補習學校以外ノ實業學校ニ付テハ土地ノ情況ニ依リ須  
要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限ル市町村、市町村學校組合及町村學校組合  
ハ前項ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

實業學校令



實業學校令

二

第五條 商業會議所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ設置シタル實業學校ハ私立トス

第五條ノ二 (削除)

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ實業補習學校ニ在リ  
テハ道府縣立ニ係ルモノヲ除クノ外地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 實業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地  
方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十條 公立又ハ私立ノ實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 (削除)

第十二條 (削除)

第十三條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 (削除)

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ本令  
施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

附則 (明治三十六年勅令第六十二號)

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大阪  
高等工業學校及京都高等工藝學校ハ本令施行ノ日ヨリ實業專門學校トス

附則 (大正九年勅令第五百六十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

實業學校令

三



### 實業學校設置廢止規則

明治三十二年三月三日  
文部省令第十二號

改正  
明治三十六年五號、一五號、三八年一七號、四  
三年六號、大正二年一三號、一〇年一八號

第一條 實業學校ヲ設置セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其ノ管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ但實業學校令第三條ニ依リ設置スル場合ニハ第九號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學則
- 四 生徒定員
- 五 開校年月
- 六 (削除)
- 七 收入支出豫算表
- 八 職員數及俸給額ノ豫定
- 九 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況

十 設立者ノ履歷、法人又ハ組合ノ設立ニ係ルモノハ其ノ定款、寄附行爲又ハ組合契約及其ノ沿革但定款又ハ寄附行爲ニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ添付ヲ要セス

前項第一號第二號第四號及第五號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申スヘシ

第一項第二號ノ位置ニ關スル稟申ニハ敷地ノ面積、地質並附近ノ情況及建物ノ配置ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第二條 位置ノ變更ニアラサル敷地ノ變更、建物ノ建設又ハ變更ハ道府縣立實業學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ實業學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ

第三條 實業學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限及入學資格ニ關スル事項
- 三 學科課程及每週教授時數ニ關スル事項
- 四 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 五 課程ノ修了及卒業ニ關スル事項



實業學校設置廢止規則

六

- 六 入學、退學、賞罰ニ關スル事項
- 七 授業料等ニ關スル事項
- 八 寄宿舎ニ關スル事項

前項第二號及第三號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一號、第四號乃至第八號ノ變更ハ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 實業學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由竝ニ生徒ノ處分方法ヲ具シテ文部大臣ニ稟申スヘシ

第五條 第二條及第三條ノ規定ハ道府縣立實業補習學校ノ設置廢止ニ關シ之ヲ適用セス

第五條ノ二 第一條ノ規定ハ實業學校ノ設立者又ハ種類ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但其ノ設置廢止ノ稟申ニ關シテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

附則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

附則(大正十年文部省令第十八條)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

工業學校規程

大正十年一月十二日  
文部省令第二號

改正  
昭和四年四二  
號、五年五號

第一條 工業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年

二 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 工業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサル者ニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スルコトヲ得

第四條 他ノ工業學校ノ生徒ニシテ轉校ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ



編入スルコトヲ得

他ノ工業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スル者ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 工業學校ノ每週教授時間ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年及實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 工業學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ必要アル場合若ハ高學年ニ在リテハ二月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 工業學校ノ學科ハ工業ノ種類又ハ之ヲ細分シタルモノニ依リ左ノ例ニ準シ適宜之ヲ定ムヘシ

機械科、工作機械科、蒸汽工科、船用機關科、內燃機關科、精密機械科、製造用機械科、水力機械科、製圖科、木型科、鑄工科、鍛工科、機械仕上科、兵器科、造船科  
電氣科、電氣機械科、電力科、電氣通信科、電氣鐵道科、照明科

土木科、鐵道科、河港科、道路橋梁科、水道科、水力科、測量科

建築科、木工科、石工科、塗工科、鉛工科

採礦科、炭礦科、石油科、撰礦科、冶金科、製鐵科

應用化學科、分析科、塗料科、製藥科、釀造科、製革科、油脂科、製紙科

電氣化學科、電鑄科、電鍍科、電解科

窯業科、製陶科、陶畫科、琺瑯科、硝子科

染織科、色染科、機織科、紡績科、織物仕上科、製絲科

金屬工藝科、木材工藝科、彫金科、鍛金科、鑄金科、原型科、玩具科、家具科、漆工科、圖案科

彫刻科、印刷科、製版科

女子ニ付テハ色染、機織、紡織、製絲、圖案、分析其ノ他女子ニ適當ナルモノヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

第九條 二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲サ、ルコトヲ得

第十條 工業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、圖畫、體操（武道ヲ含ム）並工業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ外國語、博物、地理、歴史、



商業、工場要項其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、體操並工業ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

工業ニ關スル學科目ハ學科ノ種類、入學資格、修業年限ニ應シ適切ナル事項ヲ選ヒ之ヲ定ムヘシ學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十條ノ二 前條ノ必須學科目中修身、公民科、工業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第十條ノ三 工業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十一條 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ互リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ

得

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、工業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十二條 工業學校ヲ卒業シ特ニ工業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十三條 工業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第十四條 工業學校ニ於テハ主トシテ工業ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十四條ノ二 工業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業若ハ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十五條 工業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並工業ニ關スル學科目及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十六條 工業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條 工業學校ニ於テハ教室、實驗室、實習場、圖書、器具、機械、標本、模型等ヲ備フルコ



トヲ要ス但シ實習場ハ便宜他ノ工場ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

附 則 (大正十年一月十二日文部省令第二號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

徒弟學校規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ存スル徒弟學校ハ女子職業學校ヲ除クノ外本令ニ依リ設置セラレタル工業學校ト看做ス

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校及前項ノ學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校ニ類スル各種學校ニシテ本令ニ依ラントスルモノニ付テハ第十條及第十六條ノ適用ニ關シ當分ノ内之ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則 (昭和五年四月八日文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

【参照】

文部省令第五號 (昭和五年四月八日官報)

工業學校規程中左ノ通改正ス

第一條 第一項第一號中「三年乃至五年」ヲ「二年乃至五年」ニ改ム

第五條 工業學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年及實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 工業學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ必要アル場合若ハ高學年ニ在リテハ二月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條第二項ヲ削ル

第十條 工業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、圖書、體操 (武道ヲ含ム)

竝工業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ外國語、博物、地理、歴史、商業、工場要項其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、圖畫、家事及裁縫、體操竝工業ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得



工業ニ關スル學科目ハ學科ノ種類、入學資格、修業年限ニ應シ適切ナル事項ヲ選ヒ之ヲ定ムヘシ  
學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十條ノ二 前條ノ必須學科目中修身、公民科、工業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アル  
トキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第十條ノ三 工業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノ  
モノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ  
者トス

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ  
得

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、工業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目  
ヲ加設スルコトヲ得

第十四條ノ二 工業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業若キハ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲ス  
ヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マ  
テ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マデニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

大正十年一月十二日文部省令第二號工業學校規程抄錄

第一條第一項

工業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年乃至五年

第五條 工業學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年ニ在リテハ三十時、高  
學年ニ在リテハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十三時マテ之ヲ増加スル  
コトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 高學年ニ在リテハ一學年ニ付三月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ必要アル場合  
ニ限り一月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲナシタル場合ハ此ノ



限ニ在ラス修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十條 工業學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、物理及化學、圖畫、法制及經濟、體操並工業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ外國語、博物、地理、歴史、商業大意、工場要項其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、國語、數學、理科、圖畫、家事及裁縫、體操並工業ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

工業ニ關スル學科目ハ學科ノ種類、修業年限ニ應シ適切ナル事項ヲ選ヒ之ヲ定ムヘシ  
學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

## 農業學校規程

大正十年一月十五日  
文部省令第四號

改正  
昭和四年四三  
號、五年六號

第一條 農業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年
  - 二 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年
- 前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得  
土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 農業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ  
相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

第四條 他ノ農業學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ



編入スルコトヲ得

他ノ農業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 農業學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 農業學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スル事ヲ得但シ高學年ニ在リテハ一月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 農業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、博物、體操(武道ヲ含ム)並農業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情況等ニ依リ地理、歴史、簿記、圖畫、手工、外國語、工業、商業、水産其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得  
女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並農業ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、農業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條 農業ニ關スル學科目ハ作物、園藝、土壤、肥料、作物病蟲害、畜産、家畜生理、農産製造、養蠶、蠶體生理、蠶病、製絲、農業經濟、造林、森林保護、森林利用、森林數學、森林經理、農林工學、獸醫其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

女子ニ付テハ耕種、園藝、畜産、農産製造、養蠶、製絲其ノ他女子ニ適當ナルモノヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

第九條ノ二 農業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲ストコヲ得

第十條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 農業學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ學科ヲ農業科、養蠶科、園藝科、畜産科又ハ林業科等ニ分チ其ノ一學科又ハ數學科ヲ置クコトヲ得

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

第十一條ノ二 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ互リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス



第十一條ノ三 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ四 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業生若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十一條ノ五 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條ノ六 第二部ノ學科目ハ修身、農業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十二條 農業學校ヲ卒業シ特ニ農業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十三條 農業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第十四條 農業學校ニ於テハ主トシテ農業ニ關スル事項ヲ授クル爲専修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十四條ノ二 農業學校ニ於テハ當該學校卒業生其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十五條 農業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並農業ニ關スル學科目及

實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十六條 農業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所及實習地ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條 農業學校ニ於テハ教室、實驗室及實習ニ必要ナル建物、圖書、器具、機械、標本等ヲ備フルコトヲ要ス

第十八條 特別ノ必要アルトキハ農業及農村ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第十九條 前條ノ學校及専修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

第二十條 獸醫學校ノ修業年限ハ四年トス但シ特別ノ必要アルトキハ一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

第二十一條 獸醫學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十四年以上ニシテ高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第二十二條 獸醫學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、博物、體操（武道ヲ含ム）並獸醫ニ關スル學科目及實習トス但シ外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得



獸醫ニ關スル學科目ハ解剖及組織、生理、病理、衛生、藥物及調劑、内科、外科、産科、獸醫警察、蹄鐵畜産等トス

學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十三條 第三條乃至第五條、第七條、第十二條乃至第十四條、第十五條乃至第十七條ハ之ヲ獸醫學校ニ準用ス

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附則 (昭和五年文部省令第六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

【參照】

文部省令第六號 (昭和五年四月八日官報)

農業學校規程中左ノ通改正ス

第一條 第一項第一號中「三年乃至五年」ヲ「二年乃至五年」ニ改ム

第五條 農業學校ノ毎週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得  
體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第七條 第二項ヲ削ル

第八條 農業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、博物、體操 (武道ヲ含ム) 並農業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情況等ニ依リ地理、歴史、簿記、圖畫、手工、外國語、工業、商業、水産其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並農業ニ關スル學科目實習トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、農業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條 第一項中、「水産」ヲ削ル、



第九條ノ二 農業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十一條ノ二 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ互リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ起ユルコトヲ得ス

第十一條ノ三 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ四 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十一條ノ五 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條ノ六 第二部ノ學科目ハ修身、農業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十四條ノ二 農業學校ニ於テハ當該學校卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十八條 特別ノ必要アルトキハ農業及農村ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第二十二條第一項中「修身」ノ下ニ「公民科」ヲ加ヘ「法制經濟」ヲ削リ「體操」ヲ「體操（武道ヲ含ム）」ニ改ム

第二十三條中「第十二條乃至第十七條」ヲ「第十二條乃至第十四條、第十五條乃至第十七條」ニ改ム

### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

大正十年一月十五日文部省令第四號農業學校規程抄錄

### 第一條第一項

農業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年乃至五年

第五條 農業學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ三十時以內トス但シ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十三時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ



第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第八條 農業學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、物理及化學、博物、法制及經濟、體操並農業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情況等ニ依リ地理、歴史、簿記、圖畫、手工、外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並農業ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第九條第一項

農業ニ關スル學科目ハ作物、園藝、土壤、肥料、作物病蟲害、畜産、家畜生理、農産製造、養蠶、蠶體生理、蠶病、製絲、農業經濟、造林、森林保護、森林利用、森林數學、森林經理、農林工學、獸醫、水産其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 農業ニ關スル事項ヲ專修セムトスル者ノ爲ニ特殊ノ組織ニ依リ修業年限二年以内ノ學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第二十二條第一項

獸醫學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、物理及化學、博物、法制及經濟、體操並獸醫ニ關スル學科目及實習トス但シ外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第二十三條 第三條乃至第五條、第七條、第十二條乃至第十七條ハ之ヲ獸醫學校ニ準用ス



## 商業學校規程

大正十年三月十八日  
文部省令第十七號

改正  
昭和四年四  
號、五年七號

第一條 商業學校ノ修業年限ハ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年

二 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 商業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサル者ニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

第四條 他ノ商業學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ

編入スルコトヲ得

他ノ商業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志願スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 商業學校ノ毎週教授時數ハ三十時以内トス

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ニ依ラサルコトヲ得

第六條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第七條 高學年ニ在リテハ一學年ニ付三月以内商業ニ關スル實地練習ノミヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 商業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、體操（武道ヲ含ム）並商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ圖畫、工業、農業其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、家事及裁縫、體操並商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ圖畫、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、商業ニ關スル學科目及實踐ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條 商業ニ關スル學科目ハ商事要項、簿記、商品、商業文、商業算術、商業地理、商業史、商業法規、商業英語、タイプライティング、速記術其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ



第九條ノ二 商業ニ關スル學科目及實踐ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ互リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十三條 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十四條 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十五條 (削除)

第十六條 第二部ノ學科目ハ修身、商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十六條ノ二 商業學校ヲ卒業シ特ニ商業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十七條 商業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第十八條 商業學校ニ於テハ主トシテ商業ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十八條ノ二 商業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業若ハ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十九條 商業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並商業ニ關スル學科目及實踐ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十條 商業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第二十一條 商業學校ニ於テハ教室、實驗室、實踐室其ノ他必要ナル諸室、圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本等ヲ備フルコトヲ要ス

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ



本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニ類スル各種學校ニシテ本令ニ依ラントスルモノニ付テハ第八條及第二十條ノ適用ニ關シ當分ノ内之ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則 (昭和五年文部省令第七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

【參照】

文部省令第七號 (昭和五月四月八日官報)

商業學校規程中左ノ通改正ス

第一條第一項第一號中「三年乃至五年」ヲ「二年乃至五年」ニ第二號中「三年」ヲ「二年乃至三年」ニ同條第三項中「三年以上」ヲ「二年以上」ニ改ム

第五條 商業學校ノ每週教授時數ハ三十時以内トス

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ニ依ラサルコトヲ得

第六條第二項ヲ削ル

第八條 商業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、體操 (武

道ヲ含ム)並商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ圖畫、工業、農業其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、家事及裁縫、體操並商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ圖畫、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、商業ニ關スル學科目及實踐ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條第一項中「商業實踐」及同條第二項ヲ削ル

第九條ノ二 商業學校ニ關スル學科目及實踐ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十二條中「第二號ノ學校」ヲ「第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又之ト同等以上ノ學校」ニ改ム

第十五條 削除

第十六條 第二部ノ學科ハ修身、商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十六條ノ二 商業學校ヲ卒業シ特ニ商業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ之ヲ在學セシムルコトヲ得



第十八條ノ二 商業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十九條中「相當員數」ヲ「普通學科目並商業ニ關スル學科目及實踐ニ付各相當員數」ニ改ム  
第二十一條中「商業實踐室」ヲ「實踐室」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

大正十年三月十八日文部省令第十七號商業學校規程抄錄

第一條第一項第一號、第二號第三項

商業學校修業年限ハ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年乃至五年
  - 二 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年
- 土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ三年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第五條 商業學校ノ每週教授時數ハ三十三時以内トス

第六條 第二項

修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第八條 商業學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、法制、經濟、體操並商業ニ關スル學科目トス但シ圖畫、工業大意其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、家事及裁縫、體操並商業ニ關スル學科目トス但シ圖畫、音樂、法制及經濟其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第一條第一項第一號ノ學校中修業年限三年ノモノ及第二號ノ學校ニ在リテハ歴史、理科ヲ缺クコトヲ得

第九條第一項第二項

商業ニ關スル學科目ハ商事要項、簿記、商品、商業文、商業算術、商業實踐、商業地理、商業史、商業法規、商業英語、タイプライティング、速記術其ノ他ノ必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

前項ノ學科目中商事要項、簿記、商品、商業文、商業算術、商業實踐ハ之ヲ缺クコトヲ得ス但シ第一條第一項第一號ノ學校中修業年限三年ノモノ、女子ノ學校等ニ於テ特別ノ必要アルトキ





ハ商品、商業實踐ヲ課セサルコトヲ得

第十二條 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十五條 第二部ノ每週教授時數ハ三十六時以内トス

第十六條 第二部ノ學科目ハ修身、商事要項、簿記、商品、商業文、商業算術、商業英語、商業法規、經濟トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十九條 商業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス  
第二十一條 商業學校ニ於テハ教室、實驗室、商業實踐室其ノ他必要ナル諸室、圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本等ヲ備フルコトヲ要ス

## 商船學校規程

大正十二年三月三十一日  
文部省令第十三號

改正  
昭和四年四五  
號、五年八號

第一條 商船學校ノ修業年限ハ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ五年

二 高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ四年

三 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

第二條 商船學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中尋常小學校ヲ卒業セサル者、高等小學校第一學年ヲ修了セサル者、高等小學校ヲ卒業セサル者若ハ他ノ學校ニ於テ之ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ卒ラサル者ニ付テハ試験ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ卒リタル者又ハ試験ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

第四條 他ノ商船學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スルモノアルトキハ試験ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年



ニ編入スルコトヲ得

第五條 商船學校ノ每週教授時數ハ技業ヲ除キ二十四時間以内トス但シ特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

技業ノ教授時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 教授日數ハ一學年ニ付最終學年ニ在リテハ二百日以上其ノ他ノ學年ニ在リテハ二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 商船學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、外國語、體操(武道ヲ含ム)並實業ニ關スル學科目及技業トス但シ地理、歴史、博物、圖畫、工業、商業、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第八條 實業ニ關スル學科目ハ運用術、航海術、機關術、機械製圖、海上氣象學大意、造船學大意、應用力學、電氣學大意、海上運送大意、海事諸法規、船舶衛生其ノ他ノ必要ナル事項ヨリ撰擇シテ之ヲ定ムヘシ

第九條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十條 商船學校ノ學科ハ之ヲ航海科及機關科ニ分ツ但シ其ノ一學科ノミヲ置クコトヲ得

二學科ヲ置ク場合ニ於テハ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

第十一條 商船學校ニ於テハ主トシテ海事ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十二條 商船學校ニハ本科又ハ專修科卒業後一定ノ期間實習ニ從事セムトスル者ノ爲ニ練習科ヲ置クコトヲ得

第十三條 商船學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並實業ニ關スル學科目、技業及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十四條 商船學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ船舶ヲ以テ校舎ニ代用スル場合ハ其ノ繫留地附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第十五條 商船學校ニ於テハ教室、技業室、實驗室其ノ他必要ナル諸室、圖書、器具、機械、標本、模型、機動艇、端艇、操帆練習設備等ヲ備フルコトヲ要ス

第十六條 特別ノ必要アルトキハ海事ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第十七條 前條ノ學校及專修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得



附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則（昭和五年文部省令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

【參照】

文部省令第八號（昭和五年四月八日官報）

商船學校規程中左ノ通改正ス

第五條 商船學校ノ每週教授時數ハ技業ヲ除キ二十四時以内トス但シ特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得  
體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
技業ノ教授時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條第二項ヲ削ル

第七條 商船學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、物理及化學、外國語、體操（武道ヲ含ム）並實業ニ關スル學科目及技業トス但シ地理、歴史、博物、圖畫、工業、商業、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十六條 特別ノ必要アルトキハ海事ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ置クコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

大正十二年三月三十一日文部省令第十三號商船學校規程抄錄

第五條 商船學校ノ每週教授時數ハ技業ヲ除キ三十時以内トス但シ高學年ニ在リテハ特別ノ必要アル場合ニ限り三十三時迄之ヲ増加スルコトヲ得  
技業ノ教授時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ



第六條第二項

試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第七條 商船學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、物理及化學、外國語、法制及經濟、體操並實業

ニ關スル學科目及技業トス但シ地理、歴史、博物、圖畫、商業大意、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十六條 海事ニ關スル事項ヲ專修セントスル者ノ爲ニ特殊ノ組織ニ依リ修業年限二年以内ノ學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

水産學校規程

大正十二年四月四日  
文部省令第十五號

改正  
昭和四年四六  
號、五年七號

第一條 水産學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年

二 高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年

前項ノ修業年限ハ遠洋漁業科ニ在リテハ二年以内其ノ他ノ學科ニ在リテハ特別ノ必要アル場合ニ限リ一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 水産學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得



第四條 他ノ水産學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得

他ノ水産學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 水産學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得  
體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 水産學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ高學年ニ於テ特別ノ必要アル場合ニ限り二月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 水産學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、地理、物理及化學、博物、體操（武道ヲ含ム）並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情况等ニ依リ外國語、歴史、簿記、圖畫、農業、工業、商業、其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得  
女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並水産ニ關スル學科目及實習

トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得  
前二項ノ必須學科目中修身、公民科、水産ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條 水産ニ關スル學科目ハ水産養殖、發生、漁撈、造船、航海、運用、漁獲物處理、冷蔵、水産製造、水産化學、微生物、水産衛生、應用機械、製圖、水産動物、水産植物、海洋、氣象、水産法規、水産經濟其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

第九條ノ二 水産ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 水産學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ學科ヲ水産科、養殖科、漁撈科、製造科、遠洋漁業科等ニ分チ其ノ一學科又ハ二學科以上ヲ置クコトヲ得

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ



者トス

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、水産ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十二條 水産學校ヲ卒業シ特ニ水産ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十二條ノ二 水産學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第十三條 水産學校ニ於テハ主トシテ水産ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ二 水産學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十四條 水産學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並水産ニ關スル學科目及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十五條 水産學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコト

ヲ要ス

第十六條 水産學校ニ於テハ教室、實驗室、實習場、實習船、圖書、器具、機械、標本、模型等ヲ備フルコトヲ要ス但シ實習場、實習船ハ特別ノ事情アル場合ニ限り他ノ漁場、工場又ハ漁船ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條ノ二 特別ノ必要アルトキハ水産及漁村ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第十六條ノ三、前條ノ學校及專修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則(昭和五年文部省令第九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マ



テ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

【參照】

文部省令第九號（昭和五年四月八日官報）

水産學校規程中左ノ通改正ス

第一條第一項第一號中「三年乃至五年」ヲ「二年乃至五年」ニ改ム

第五條 水産學校ノ毎週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 水産學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ高學年ニ於テ特別ノ必要アル場合ニ限り二月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條第二項ヲ削ル

第八條 水産學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、地理、物理及化學、博物、體操（武道ヲ含ム）並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情况等ニ依リ外國語、歴史、簿記、圖畫、農業、工業、商業其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、水産ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條ノ二 水産ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十一條第二項中「修業年限」ノ上ニ「學科ノ種類」ヲ加フ

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、水産ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十二條ノ二 水産學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得



第十三條ノ二 水産學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十六條ノ二 特別ノ必要アルトキハ水産及漁村ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第十六條ノ三 前條ノ學校及専修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

大正十二年四月四日 文部省令第十五號 水産學校規程抄錄

第一條第一項

水産學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年乃至五年

第五條 水産學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ三十時以内トス但シ實習ヲ課セサル期間其ノ他特

別ノ必要アル場合ニ限り三十三時マテ之ヲ増加スルコトヲ得實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 高學年ニ在リテハ一學年ニ付三月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ必要アル場合ニ限り一月以内之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第八條 水産學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、地理、物理及化學、博物、法制及經濟、體操並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情况等ニ依リ外國語、歴史、簿記、圖畫其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、國語、數學、理科、家事及裁縫、體操並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ地理、歴史、簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十一條第二項

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得



## 職業學校規程

大正十年一月十三日  
文部省令第三號

改正 昭和三年六號、四年  
四七號、六年三號

第一條 職業學校ノ修業年限ハ二年以上四年以内トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ學科ノ種類、入學資格等ニ應シ一年以内之ヲ伸縮スルコトヲ得

第二條 職業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ノ資格ハ年齢十二年以上ニシテ學力尋常小學校卒業程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三條 職業學校ノ每週教授時數ハ二十四時以上トス

第四條 教授日數ハ毎學年二百日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 職業學校ノ學科ハ裁縫、手藝、洗染、割烹、タイプライター、速記、簿記、珠算、通信、鐵道、自動車、航空、電鍍、機械修理、家具、時計、寫眞、印刷、測量、製圖、圖案、造園、養雞、整容美髮、助産、看護、鍼灸、演藝等ニ付之ヲ定ムヘシ

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

第六條 職業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、體操並實務ニ關スル學科目及實習トス但

シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ歴史、地理、理科、圖畫、外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、歴史、地理、理科、圖畫、音樂、體操並家事、裁縫、手藝、實業等實務ニ關スル學科目及實習トス但シ教育、外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、實務ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

加設學科目又ハ實務ニ關スル學科目及實習中或事項ハ生徒ノ志望ニ依リ選擇履修セシムルコトヲ得

第六條ノ二 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ互リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 職業學校ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ更ニ或事項ヲ專攻セムトスルモノノ爲專攻科ヲ置クコトヲ得

專攻科ノ修業年限ハ三年以内トス



第七條ノ二 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年又ハ之ト同等以上ノ女子ノ職業學校ニハ更ニ精深ナル課程ヲ履修セムトスル者ノ爲高等科ヲ置クコトヲ得

第七條ノ三 高等科ノ修業年限ハ二年又ハ三年トス

第七條ノ四 高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年又ハ之ト同等以上ノ女子ノ職業學校ヲ卒業シタルモノ若ハ之ニ準スヘキモノトス

第八條 職業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第九條 職業學校ニ於テハ主トシテ職業ニ關スル事項ヲ授クル爲別科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第九條ノ二 職業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十條 職業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十一條 職業學校ニ於テハ教室其ノ他必要ナル諸室、器具、機械、標本、模型等ヲ備ヘ又實習ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル徒弟學校規程ニ依ル女子職業學校ハ本令ニ依ル職業學校ト看做ス

附則(昭和四年文部省第四十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ體操ヲ課セサル學校ニシテ第六條ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則(昭和六年文部省令第三號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル職業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和七年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得



二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程

五六

## 二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程

大正十年一月十八日 文部省令第五號

第一條 工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水産學校及職業學校ノ内二種以上ノ學校ノ學科又ハ之ヲ併合シタル學科ヲ置ク實業學校ヲ設クルコトヲ得

第二條 前條ノ實業學校ノ修業年限、入學資格、學科目及其ノ程度、設備等ハ學科ノ種類ニ應シ工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程、商船學校規程、水産學校規程又ハ職業學校規程ニ準シ之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年文部省令第七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際明治三十七年文部省令第七號ニ依リ現ニ存スル實業學校ハ本令ニ依ル實業學校ト看做ス

(參照)

明治三十七年文部省令第七號ハ二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得ルノ件ナリ

## 實業補習學校規程

大正九年十二月十七日  
文部省令第三十二號

第一條 實業補習學校ハ小學校ノ教科ヲ卒ヘ職業ニ従事スル者ニ對シ職業ニ關スル知識技能ヲ授クルト共ニ國民生活ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ本旨トス

第二條 實業補習學校ノ課程ヲ前期、後期ニ分チ其ノ修業年限ハ前期二年、後期ハ工業又ハ商業ニ關スル學校ニ在リテハ二年、農業又ハ水産ニ關スル學校ニ在リテハ二年乃至三年ヲ標準トス

第三條 實業補習學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ前期ニ在リテハ尋常小學校卒業者又ハ之ニ準スヘキ者トシ後期ニ在リテハ前期ノ課程ヲ卒ヘタル者、高等小學校卒業者又ハ之ニ準スヘキ者トス

第四條 實業補習學校ノ教授時數ハ一年ニ付工業又ハ商業ニ關スル學校ニ在リテハ前期二百八十時乃至四百二十時、後期二百時乃至四百二十時、農業又ハ水産ニ關スル學校ニ在リテハ前期二百時乃至三百二十時、後期百六十時乃至三百二十時ヲ標準トス

第五條 實業補習學校ノ學科目ハ前期ニ在リテハ修身、國語、數學、理科及職業ニ關スル學科目トシ後期ニ在リテハ修身、國語、數學及職業ニ關スル學科目トス但シ前期ノ理科、後期ノ國語又ハ數學ハ之ヲ缺クコトヲ得  
女子ニ課スヘキ學科目ハ前期ニ在リテハ修身、國語、數學、家事、裁縫及職業ニ關スル學科目トシ後期ニ在リテハ修身、國語、家事、裁縫及職業ニ關スル學科目トス但シ前期ノ家事又ハ裁縫、後期ノ國語、家事、裁縫中ニ學科目以内ハ之ヲ缺クコトヲ得

前二項ノ學科目ノ外必要ニ應シ歴史、地理、體操、法制、經濟、簿記、外國語其ノ他ノ學科目ヨリ適宜選擇シテ之ヲ加設スルコトヲ得

第六條 一學科目又ハ其ノ一部ヲ他ノ學科目又ハ其ノ一部ニ併セ之ヲ一學科目ト爲スコトヲ得

實業補習學校規程

五七



第七條 加設學科目及後期ノ職業ニ關スル學科目中或事項ハ生徒ノ志望ニ依リ之ヲ缺キ又ハ選擇履修セシムルコトヲ得

一 學科目又ハ數學科目ニ付或學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタルモノニ對シテハ當該學年ニ於テ之ヲ課セサルコトヲ得

第八條 實業補習學校ニ於テハ適當ナル學科目ニ於テ法制上ノ知識其ノ他國民公民トシテ心得ヘキ事項ヲ授ケ又經濟觀念ノ養成ニカムルヲ要ス

職業ニ關スル學科目ニ於テハ前期ニ在リテハ工業、農業、商業又ハ水産等ニ關シ主トシテ基礎的知識技能ヲ授ケ後期ニ在リテハ職業ノ種類ニ應シ適切ナル事項ヲ授ケルヲ要ス

第九條 實業補習學校ニ於テハ常ニ生徒ノ體育及衛生ニ留意スルヲ要ス

第十條 實業補習學校ニ於テハ後期ノ課程ヲ卒ヘ更ニ學習セントスル者ノ爲別ニ適宜ノ課程ヲ設ケ一定ノ期間之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十一條 實業補習學校ニハ土地ノ狀況ニ依リ前期又ハ後期ノ課程ノミヲ置クコトヲ得

第十二條 工業、農業、商業、水産以外ノ職業ニ關スル實業補習學校ノ修業年限、教授時數、學科目等ハ前數條ノ規定ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前各條ニ規定スルモノノ外後期ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ相當ノ年齢ニ達シ相當ノ學力若ハ技能ヲ有スル者ニ對シ主トシテ職業ニ關スル専門ノ事項ヲ授ケル爲高等ノ實業補習學校ヲ設ケルコトヲ得

高等ノ實業補習學校ノ修業期間、教授時數、學科目等ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ  
高等ノ實業補習學校ノ課程ハ他ノ實業補習學校ノ課程トシテ之ヲ置クコトヲ得

第十四條 實業補習學校ニ於テハ短期間特殊ノ事項ヲ授ケル爲隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十五條 實業補習學校ハ學校、試驗場、講習所等ニ併置スルコトヲ得

第十六條 實業補習學校ニハ分教場ヲ設ケルコトヲ得  
第十七條 實業補習學校ニハ學科目、教授時數學級數ニ應シ相當員數ノ教員ヲ置クヘシ  
第十八條 實業補習學校ニハ必要ナル諸室、圖書、器具、機械、標本等ヲ備フヘシ  
第十九條 實業補習學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限ニ關スル事項
- 三 學科目及其ノ程度ニ關スル事項
- 四 教授時數ニ關スル事項
- 五 教授ノ時刻及季節ニ關スル事項
- 六 休業日ニ關スル事項
- 七 入學退學等ニ關スル事項
- 八 授業料等ニ關スル事項

第二十條 道府縣立ニアラサル實業補習學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並教授時數ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
特別ノ事由ニ依リ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノニ付テハ本令施行ノ後三年間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得



實業補習學校教員養成所令

大正九年十月三十日  
勅令第五百二十一號

第一條 北海道府縣及市ニ於テ設置スル實業補習學校教員養成所ハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
第二條 實業補習學校教員養成所ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第三條 實業補習學校教員養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

教諭

助教諭

書記

前項ノ職員ノ外寄宿舎ノ設アル養成所ニハ舎監ヲ置ク

第四條 所長ハ委任官ノ待遇トス地方長官ノ監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條 教諭ハ委任官又ハ列任官ノ待遇トシ助教諭ハ列任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

教諭ニシテ委任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ニ關シテハ公立學校職員制中實業學校ニ關スル規定ヲ準用

ス

舎監ハ教諭又ハ助教諭ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ事ヲ掌ル

第六條 書記ハ列任官ノ待遇トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 實業補習學校教員養成所職員ノ待遇官等等級ニ關シテハ公立學校職員待遇官等等級令中實業學校職員ニ

關スル規定ヲ、俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ公立學校職員俸給令中實業學校職員ニ關スル規定ヲ、分限ニ

關シテハ公立學校職員分限令ヲ準用ス

第八條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外實業補習學校教員養成所ノ設置、廢止、入學資格、修業年限、學科及學科

目並教諭及助教諭ノ資格等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 實業補習學校教員養成所令施行規則

大正九年十二月十八日  
文部省令第三十三號

- 第一條 實業補習學校教員養成所ノ修業年限ハ一年乃至二年トス
- 第二條 實業補習學校教員養成所ノ學科目ハ修身、教育、法制、經濟並實業ニ關スル學科目及實習トス但シ女子ニ付テハ家事、裁縫ヲ加ヘ法制、經濟ハ之ヲ缺クコトヲ得
- 第三條 第一項第二號ニ該當スル者又ハ之ニ準スヘキ者ニ付テハ教育ハ之ヲ課セサルコトヲ得
- 第一項學科目ノ外國語、數學、外國語、簿記、社會學大意其ノ他必要ナル學科目ヲ加設スルコトヲ得
- 第三條 實業補習學校教員養成所ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルヘシ
  - 一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ實業學校又ハ之ト同程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者
  - 二 師範學校ヲ卒業シタル者
- 前項ノ外中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者、小學校本科正教員、小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者若ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ヲ卒業シ二年以上實業ニ關スル經驗ヲ有スル者其ノ他之ニ準スヘキ者ニシテ相當ノ學力アリト認メタルモノハ之ヲ入學セシムルコトヲ得
- 第四條 實業補習學校教員養成所ニハ講習科ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 實業補習學校教員養成所ノ教諭及助教諭タルコトヲ得ル者ハ一般ノ實業學校教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スルモノタルヘシ
- 第六條 實業補習學校教員養成所ハ公立學校又ハ實業ニ關スル公立ノ試驗場若ハ講習所ニ併設スルコトヲ得
- 第七條 實業補習學校教員養成所ニ於テハ教室、實驗室、實習場、器具、機械、標本、圖書其ノ他教授上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第八條 實業學校設置廢止規則ハ實業補習學校教員養成所ノ設置廢止ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 實業補習學校教員養成所生徒ノ學資ノ給與及卒業後ノ服務ニ關スル事項ハ地方長官之ヲ定ム

#### 附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノニ付テハ大正十一年三月三十一日マテ之ヲ斟酌スルコトヲ得



### 實業學校教員養成規程

大正四年三月三十一日  
文部省令第七號

改正 大正八年三號、二五號、九年一二號、一〇年  
二五號、三〇號、昭和四年一九號、四九號

第一條 東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所、東京商科大學附屬商業教員養成所、東京工業大學附屬工業教員養成所、大阪工業大學附屬工業教員養成所、名古屋高等工業學校附設工業教員養成所及橫濱高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ授業料ヲ徴收セス

前項養成所ノ生徒ニハ一箇月二十五圓以内ノ學費ヲ補給スルコトアルヘシ  
帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得

第二條 前條養成所ノ生徒及前條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ從事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

一 養成所ノ生徒ハ其ノ在學期間ノ二分ノ一

二 養成所ノ生徒ニシテ學費ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間

三 授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一

第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ又同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 第一條養成所ノ生徒及同條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費學費又ハ授業料ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二 實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三 第二條ノ義務ヲ盡サス又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ各教員養成所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 地方長官ニ於テ文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ從事スル者ニ其ノ義務期間内ニ轉任、退職若ハ休職ヲ命シ又ハ休職期間中復職ヲ命シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ

文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ從事スル者ニシテ其ノ義務期間内ニ陸海軍現役ニ服シ若ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルカ爲當然休職トナリタル者アルトキ又ハ休職期間滿了ノ爲退職トナリタル者アルトキハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ

第七條 各養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 大學及專門學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ一箇月二十五圓以内ノ學費ヲ補給スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ學費ノ補給ヲ受クル者將來教員タルニ適セサルモノト認メタルトキハ文部大臣ハ學費ノ補給ヲ止ムルコトヲ得



實業學校教員養成規程

六六

前項ノ場合ニ於テハ既ニ支給シタル學資ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 前條ノ規程ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限ノ一倍中ニ相當スル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スル義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第三條乃至第六條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ學資ヲ補給スヘキ學生生徒ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前各教員養成所ニ入學シタル者若ハ帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

航海練習所官制

第一條 航海練習所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ文部大臣ノ指定シタル商船學校ノ本科航海科ヲ卒リタル者ヲ入所セシメ航海ノ練習ヲ爲サシムル所トス

第二條 航海練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師 專任 六人 奏任

技手 專任 六人 列任

書記 專任 二人 列任

第三條 所長ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所長ハ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ練習船ノ航海ニ關スルコトヲ掌リ兼テ航海ノ練習ヲ指導ス

第五條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 航海練習所規程

- 第一條 航海練習所ノ練習期間ハ一年三月以内トス
- 第二條 航海練習所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ航海練習所官制第一條ニ依リ指定セラレタル商船學校ニ於テ本科航海科ヲ卒リタルモノトス
- 第三條 航海練習所ニ於テハ航海實習ノ外修身、國語、數學、英語、航海術、運用術、機關術、氣象學、海運、海事法規、無線電信、船舶衛生等ヲ課スルモノトス
- 第四條 所長ハ航海練習所所定ノ課業ヲ了リタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ
- 第五條 所長ハ成業ノ見込ナシト認メタル者及性行不良ナル者ニハ退所ヲ命スヘシ
- 第六條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退所スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ所長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 所長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
- 第八條 所長ハ航海練習所修了者ニシテ特ニ航海ニ關スル事項ヲ研究セントスルモノアルトキハ之ヲ在所セシムルコトヲ得
- 第九條 航海練習所ニ於テハ授業料ヲ徴收セス

#### 附則

本令ハ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 私立學校令

明治三十二年八月三日  
勅令第三百五十九號

改正  
明治四四年二一八號、大正八  
年一九號、一二年三八一號

- 第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス
- 第二條 私立學校ノ設立廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條ノ二 私人ニシテ中學校又ハ專門學校ヲ設立セムトスルトキハ其ノ學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル資産及設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具ヘ民法ニ依リ財團法人ヲ設立スヘシ
- 第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ  
本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 (削除)
  - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
  - 四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者
  - 五 教員免許狀審査ノ處分ヲ受ケ又ハ第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ二箇年ヲ經過セサル者
  - 六 性行不良ト認ムヘキ者
- 第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲メニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要ス



前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ解職ヲ命シ又ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ學齡兒童ニシテ未ダ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲サ、ルトキ

四 法令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第十一條ノ二 大學、專門學校、高等學校又ハ中學校ニ於テハ每學年又ハ每事業年度ノ開始前收支豫算ヲ定メ、每學年又ハ每事業年度ノ終了後收支決算ヲ爲シ監督官廳ニ届出ツヘシ

監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ收支豫算ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴訟法ニ依リ訴訟スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條ノ設立ノ手續ヲ爲サ、ル者及學校ノ廢止又ハ設立者ノ變更ニ關シ第二條

ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ又ハ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未ダ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タラント欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケルヲ要セス



### 私立學校令施行規則

明治三十二年八月三日  
文部省令第三十八號

改正 大正一二年三六號

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地校舎  
寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 經費及維持方法

前項第一號乃至第三號及校地、校舎、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申シ第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受ク  
ヘシ

第二條 學則又ハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程、授業時間ニ關スル事項

三 試験ニ關スル事項

四 入學退學ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 賞罰ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ教員タルノ認可ヲ受  
ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試験ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校教員ニ在リテハ小學校教員檢  
定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲ  
シテ之ヲ行ハシム

第五條 私立學校ノ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第六條 明治十四年文部省達第十五條ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス



### 中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ

#### 設クルノ件

明治二十六年五月十八日  
勅令第三十三號

改正 明治三二年六號、二九號

第一條 町村ハ中學校高等女學校又ハ實業學校ヲ設置センカ爲メ町村制第百十六條第一項ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル

第二條 前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

【參照】

町村制

第百二十九條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設ク

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其

ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル町

村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組

合町村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第百三十三條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部

事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ町

村組合ヲ解クコトヲ得

備考

明治四十四年法律第六十九條ヲ以テ町村制改正ノ結果舊町村制第百十六條第一項ハ第百二十九條ニ第十八條ハ  
第百三十三條ニ該當





實業學校卒業程度檢定規程

大正十四年五月二十八日  
文部省令第三十號

改正 昭和三年  
一三號

- 第一條 實業ニ從事シ又ハ從事セムトスル者ノ爲實業學校卒業程度ノ檢定ヲ行フ
- 第二條 實業學校卒業程度ノ檢定ハ尋常小學校卒業ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校卒業程度ニ依リ女子ニ在リテハ尋常小學校卒業ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年ノ實業學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ
- 第三條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程、水産學校規程及職業學校規程ノ各必須學科目トス但加設學科目ヨリ適宜選擇シテ檢定學科目ニ加フルコトヲ得
- 第四條 檢定ヲ爲スヘキ學校ノ種別、學科、學科目ハ之ヲ告示ス
- 第五條 檢定ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ其ノ檢定ノ期日、場所、出願期限ハ豫メ之ヲ告示ス
- 第六條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所地ノ地方廳ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ
  - 一 履歷書(第二號書式)
  - 二 戶籍抄本
  - 三 寫眞(手札形トシ半身脫帽ニテ出願前六月以内ニ撮影シ畫紙ニ貼付セス裏面ニ撮影年月日、本籍地、氏名ヲ記載シタルモノ)
  - 四 第七條ノ證明書ヲ有スル者ハ其ノ寫
  - 第五條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ一學科ニ付金七圓ヲ納付スヘシ
  - 第六條 檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ付與ス
  - 第七條 檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セザルモ受檢學科目中ニ付實業學校卒業程度ノ學力アリト認めタルト

キハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ當該學科ニ付檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス

第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者又ハ檢定ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ其ノ檢定ヲ受ケルコトヲ得ス

檢定後前項ノ事實發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條 合格證書ヲ有スル者氏名ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得第七條ノ證明書ニ付亦同シ

前項ニ依リ合格證書又ハ證明書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

既納ノ手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ檢定ニ合格シタル者又ハ第七條第一項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ當該學科ニ付更ニ檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ合格シタル學科目及第七條第一項ノ證明書ヲ交付シタル學科目ノ檢定ヲ免除ス

第一號書式(用紙美濃紙)

受檢願書

收入印紙

本籍  
現住所

學校ノ種類 何

實業學校卒業程度檢定規程



實業學校卒業程度檢定規程

七八

學科 何

氏

免除學科目 何

年月日生 名

私備實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ檢定相受度書類ヲ具シ此段相願候也

氏

名

年月日

氏

名

文部大臣宛

氏

名

(記載注意) 一 學校ノ種類ニハ工業學校、農業學校、商業學校、水産學校等ノ名稱ヲ記載スヘシ

二 學科ニハ機械、建築、農業、養蠶、商業、水産等學科ノ種類ヲ記載スヘシ

三 免除學科目ニハ其ノ免除學科目ノ種類ヲ記載スヘシ

四 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スヘシ

第二號書式(用紙美濃紙)

履歷書

本籍

現住所

氏

年月日生 名

學業

一 年月日 何學校何學科何學年ニ入學 年月卒業(目下在學中)

一 年月日 何年月施行實業學校卒業程度ノ檢定ニ於テ何學校何學科何學科目證明書受領(證明書番號何號)

業務

一 年月日 何官職拜命若ハ何業ニ從事 年月何事由ニ依リ退官若ハ廢業

賞罰

一 年月日 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一 年月日何事由ニ依リ何ト改氏名等

(記載注意)

一 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ

二 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ

三 身上ニ關スル事項ハ本籍氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

昭和 年 第 號

合格證書

本籍 氏

年月日生 名

右ハ實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

年月日

文部省

第四號書式

昭和 年何學校 第 號

證明書

實業學校卒業程度檢定規程

七九



實業學校卒業程度檢定規程

八〇

本籍氏

名

年月日生

右ハ實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ於テ左記學科目ニ付キ合格點ヲ得タルコトヲ證明ス  
年月日

文部省

檢定施行年月	合格點ヲ得タル學科目
--------	------------

公立學校職員制

大正六年一月二十九日  
勅令第五五號

改正  
大正八年三七六號、九年三二四號、五六二號、一〇年三一  
三號、一二年三七七號、一三年七四號、昭和二年三六八號

第一條 公立大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學總長又ハ大學長

教授

助教授

幹事

學生監

助手

書記

大學總長ハ數個ノ學部ヲ有スル大學ニ、大學長ハ一個ノ學部ヲ有スル大學ニ置ク

第一項職員ノ外大學豫科ニ教授及助教授ヲ置ク

第一條ノ二 公立大學ノ附屬病院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長

藥局長

藥劑手

看護長

第一條ノ三 公立ノ專門學校、實業專門學校及高等學校ニ左ノ職員ヲ置ク

公立學校職員制



學校長

教授

助教授

書記

前項職員ノ外寄宿舎ノ設アル學校ニ舎監、高等學校ノ尋常科及豫科ニ教諭及助教諭ヲ置ク

第二條 師範學校、公立ノ中學校、高等女學校、實業學校、盲學校聾啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭

助教諭

書記

前項職員ノ外高等科ヲ置キタル高等女學校ニ教授助教授、寄宿舎ノ設アル學校ニ舎監、師範學校盲學校及聾啞學校ニ訓導、附屬幼稚園ヲ置キタル師範學校並初等部豫科ヲ置キタル盲學校及聾啞學校ニ保姆ヲ置ク

第二條ノ二 大學總長及大學長ハ勅任官ノ待遇トス

大學總長及大學長ハ文部大臣ノ監督ヲ承ケ大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

第三條 專門學校、實業專門學校及高等學校ノ學校長ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス

學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 師範學校長ハ奏任トス中學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ奏任官ノ待遇トス但シ實科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇トス

盲學校及聾啞學校ノ學校長ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇トス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

師範學校長ハ兼テ其ノ道府縣内ニ於ケル小學教育ニ關スル學事ヲ觀察ス

第四條ノ二 大學ノ教授ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

大學ノ助教授ハ奏任官ノ待遇トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

大學ノ幹事ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

大學ノ學生監ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ學生及生徒ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ三 數個ノ學部ヲ置ク大學ニ於テハ各學部ニ學部長一人ヲ置キ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ大學總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第四條ノ四 大學附屬醫院ノ醫院長ハ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ醫院ノ事務ヲ掌理ス

大學附屬醫院ノ藥局長ハ奏任官ノ待遇トス醫院長ノ命ヲ承ケ藥局ノ事務ヲ掌ル

第五條 專門學校、實業專門學校、高等學校、大學豫科及高等女學校高等科ノ教授ハ奏任官ノ待遇、助教授ハ勅任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

大學豫科ニ主事ヲ置キ大學豫科教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ大學豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

第六條 高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校並ニ盲學校及聾啞學校ノ中等部ノ教諭ハ奏任官又ハ勅任官ノ待遇、助教諭ハ勅任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

地方長官ハ師範學校教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學校主事ヲ命シテ兼テ園務ヲ掌ラシム

第七條 師範學校、中學校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ノ教諭ニシテ奏任官ノ待遇トス

スコトヲ得ル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數五學級以下ノ師範學校ニ在リテ四人以内、五學級以下ノ中學



校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ増ス毎ニ一人ヲ加フルコトヲ得

但三學級以下ノ學校ニ在リテハ二人ヲ超ユルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ三學級ノ男子實業學校（實業補習學校ヲ除ク）ニ付テハ之ヲ適用セス

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ第一項ノ定員外トス

高等女學校高等科ノ學級數ハ之ヲ第一項ノ學級數ニ算入セス

第八條 專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ舍監ハ教授、助教授、教諭、助教諭又ハ訓導ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ舍監ヲ置クコトヲ得

專任舍監ハ判任官ノ待遇トス

舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ事ヲ掌ル

第八條ノ二 大學ノ助手ハ判任官ノ待遇トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ受ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第八條ノ三 大學附屬醫院ノ藥劑手ハ判任官ノ待遇トス藥局長ノ指揮ヲ承ケ藥局ニ關スル職務ニ服ス

大學附屬醫院ノ看護長ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ看護ニ關スル職務ニ服ス

第九條 師範學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌リ兼テ師範學校生徒ノ實地授業ヲ監督ス

盲學校及聾啞學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス

第十條 師範學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス

盲學校及聾啞學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス初等部豫科幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十一條 大學、專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾

啞學校ノ書記ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條 本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年勅令第二百四十四號及師範學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各當該學校ノ教授又ハ助教授ニ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ニシテ休職中ノ者ニ關シテハ其ノ休職期間中仍其ノ職ヲ存置シ從前ノ例ニ依ル

附則（大正九年勅令第五百六十二號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年勅令第十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ訓導タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ當該學校ノ助教諭ニ任セラレタルモノトス

附則（昭和二年勅令第三六八號）

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ三學級以下ノ學校ニ於テ兼任官ノ待遇ヲ受クル教諭三人アル場合ニ於テハ其ノ全員カ當該學校ニ在職スル間ニ限リ第七條第一項但書ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ員數ヲ維持スルコトヲ得

【參照】

明治二十四年勅令第二百四十四號ハ公立中學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免ノ件ナリ











公立學校職員俸給令

明治三十六年三月二十八日 勅令第六十六號

改正 明治三十七年五三號、四二年三三三號、大正三年二〇五號、六年八號、八年二七號、三七九號、九年三二六號、一〇年一六號、八八號、三一九號、一二年三七九號、一四年一四八號、昭和三年八五號、昭和五年一九〇號、昭和六年一一五號

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ列任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ

第二條 勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル

第二條ノ二 高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長、教授及奏任官ノ待遇ヲ受クル教諭ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校高等科ヲ置ク高等女學校ヲ除ク、實業學校實業專門學校ヲ除ク、盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル

第四條 列任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第四號表ニ依ル

第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以內列任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ増加スルコトヲ得但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千百三十圓以下ノ者及列任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキニ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十三條 退職後一年俸千百三十圓以下又ハ月給七十五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十四條 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得  
前二項ノ規定ハ年俸千百三十圓以下又ハ月俸七十五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス  
退職後一年以內ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラレル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十六條 休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得

第十七條 師範學校訓導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第十八條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得



公立學校職員俸給令

第十七條 高等官等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官待遇ヲ受クル職員ニ關シ列任官俸給令第十三條乃至第十四條ノ規則ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

第一號表

學校長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
教 授	三、六〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇
教 諭	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇
生徒主事	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇

第二號表

學校長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
教 授	三、六〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇
教 諭	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇
教 諭	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇

第三號表

學校長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
教 諭	二、七〇〇	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇
教 諭	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
教 諭	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇

第四號表

高等師範學校	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
高等女學校	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
師範學校	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
中學校	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
高等師範學校	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
高等女學校	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
師範學校	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
中學校	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	〇
高等師範學校	二、四〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
高等女學校	二、一〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
師範學校	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
中學校	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	〇

公立學校職員俸給令







公立學校職員俸給令

九六

金額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク  
第二項但書及前項但書ノ規定ニ該當スルモノノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノトス  
第二項第三項及第五項ノ規定ニ依ル金額圖位未滿ハ之ヲ圖位ニ滿タシム

附則(大正十年勅令第十六號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ訓導タル者ニシテ辭令書ヲ用キス當該學校ノ助教諭ニ任セラレタルモノハ  
從前ノ俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ從前ノ俸給額ヲ受クルモノトス

附則(大正十年勅令第八十八號)

本令ハ大正十年四月分ヨリ之ヲ適用ス

附則(大正十年勅令第三百十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ  
相當スル級俸ヲ、相當級俸ナキトキハ現ニ受クル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

附則(大正十四年勅令第四百十八號)

本令ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

附則(昭和三年勅令第八十五號)

本令ハ昭和三年四月分ヨリ之ヲ適用ス

公立學校職員年功加俸國庫補助法

大正九年八月三日  
法律第三十二號

改正 大正一四年一二號

第一條 師範學校並公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校及實業補習學校  
教員養成所ノ職員ノ年功加俸ニ要スル經費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス  
第二條 前條ノ規定ニ依リ補助スヘキ金額ハ前年六月一日現在ニ於テ五年以上勤續スル學校職員ノ數ニ比例シテ  
之ヲ北海道府縣ニ交付ス

第三條 學校職員ノ範圍及勤續ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 第一條ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ包含セス

附則

本法ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 公立學校職員年功加俸令

大正九年十月二十八日  
勅令第五百十九號

改正 大正一〇年六〇號、一四年二七五號、昭和六年一二號

第一條 師範學校並公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校及實業補習學校  
教員養成所ノ學校長、所長、教諭、助教諭、舍監、訓導及保母ニシテ五年以上勤続スル者ニハ年功加俸ヲ給ス  
前項各職間ノ轉職ハ之ヲ勤続ト看做ス學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ前項ニ掲  
クル職ニ就キタルトキハ亦同シ

第一項ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ、學校長ニハ師範學校長ヲ包含セス

第二條 北海道地方費及府縣ハ前條ノ年功加俸ニ充ツル爲公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ  
受クル交付金ト同額以上ノ金額ヲ支出スヘシ

第三條 北海道地方費及府縣ハ公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金及前條ノ規定  
ニ依ル支出金ヲ以テ公立學校職員年功加俸資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

第四條 年功加俸ノ年額ハ別表ニ依ル

第五條 年功加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間年功加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得  
第七條 市町村立小學校ノ訓導又ハ准訓導第一條第一項ニ掲クル職ニ轉シタル場合ニ於テハ其ノ市町村立小學校  
教員加俸令ニ依ル勤続年數ハ之ヲ第一條第一項ニ規定スル勤続年數ニ通算ス小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格  
ヲ有シ市制町村制ヲ施行セザル地方ノ小學教育規程ニ依ル公立小學校ニ在職スル者第一條第一項ニ掲クル職ニ  
轉シタル場合ニ付亦同シ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ第一條第一項ニ掲ク  
ル職ニ就キタルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

第八條 師範學校長ニシテ在官ノ儘第一條第一項ニ掲クル職ニ在ル者師範學校長勤続加俸令ニ依リ勤続加俸ヲ受  
クルトキハ本令ニ依ル年功加俸ハ之ヲ給セス本令ニ依リ現ニ受クル年功加俸ハ之ヲ停止ス

第九條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外年功加俸ノ支給ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

#### 附 則

本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年九月三十日現在ニ於テ勤続五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤続五年ニ達シタル  
モノト看做ス

#### 附 則 (大正十四年勅令第二百七十五號)

本令ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

盲學校及聾啞學校令及實業補習學校教員養成所令施行前ノ公立ノ盲啞學校又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル  
職員ハ大正九年四月一日以後ニ限リ本令ノ適用ニ付テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一條第一項ノ職員タリ  
シモノト看做ス

本令ノ適用ニ因リテ大正十四年三月三十一日現在ニ於テ勤続五年以上ニ達スルコトナル者ハ本令ノ適用ニ付テ  
ハ同日ニ於テ勤続五年ニ達シタルモノト看做ス

#### 附 則 (昭和六年勅令第二百一十一條)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ百圓以上ノ場合ニ在リテ  
ハ其ノ百分ノ九十三ノ額ヲ、百圓未満ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十六ノ額ヲ受ク但シ左ノ制限ニ依ル















### 公立學校職員年功加俸令ノ適用ヲ受クル職員規定

大正十四年十一月二十四日  
文部省告示第三百五十八號

大正十四年勅令第二百七十五號附則第二項ニ依リ大正九年四月一日以後公立學校職員年功加俸令ノ適用ヲ受クル職員ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、公立ノ盲啞學校ノ左ノ職員
  - 學校長ノ職ニ在リタル者並教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者、小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者ニシテ教諭、助教諭又ハ訓導ノ職ニ在リタル者
- 二、石川縣立農業補習學校教員養成所教諭、和歌山縣實業補習學校教員養成所長、教諭並熊本縣農業教員養成所教諭職ニ在リタル者

### 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程

明治四十年九月二十一日  
文部省令第二十八號

改正 大正八年二六號、九年三四號、一一年五號、一三年三三號、昭和四年四八號

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得
  - 一 學位ヲ有スル者
  - 二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立學校ノ卒業生ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者
  - 三 文部大臣ノ指定シタル者
  - 四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者
- 第二條 一般ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得
  - 一 實業補習學校教員養成所卒業生
  - 二 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
  - 三 文部大臣ノ指定シタル者
- 第三條 實業ニ關スル特別ノ知識經驗ヲ有スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得
- 第四條 第二條ノ二ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ從事セントスル學校ノ種類、程度、學科並ニ擔任ノ學科目ヲ記載シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ當該官廳ニ申請スヘシ
- 第五條 特別ノ必要アルトキハ公立實業學校ニ在リテハ地方長官、私立實業學校ニ在リテハ設立者ニ於テ第一條乃至第二條ノ二ノ資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得



前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立實業學校ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得ス

第四條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラサレハ公立實業補習學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得ス

一 一般ノ實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者

二 修業年限二年ノ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者

三 前號以外ノ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ

四 小學校本科正教員又ハ小學校専科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ

實業補習學校以外ノ公立學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス公立實業補習學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得

第五條 職業學校及實業補習學校以外ノ實業學校ニ於テハ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有スル教員ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

職業學校ニ於テハ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有スル教員ヲ超過スルコトヲ得ス

實業補習學校ニ於テハ第四條第一項ニ依リ採用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 本令ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘク地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第七條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

第八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令公布ノ際現ニ公立實業學校ノ教諭・助教諭又ハ訓導ノ職ニ在リテ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十條 本令公布ノ際現ニ實業學校ノ教員タル者ハ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサルモ引續キ同一學校ニ在職スル場合ニ限リ本令施行ノ日ヨリ一箇年間第五條ノ關係ニ於テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有スル教員ノ數ニ算

入ス

附則(大正九年文部省令第三十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年文部省告示第九十二號公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定第二號各項ノ一ニ該當シ本令施行ノ際現ニ實業學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者ハ實業學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校ノ訓導ノ職ニ在ル者ハ實業補習學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校訓導ノ職ニ在ル者ニシテ第二條ノ資格ヲ有スルモノニ付テハ第四條ノ二ノ適用ニ關シ助教諭ノ在職年數ヲ相當斟酌スルコトヲ得

大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル實業補習學校教員養成所ニ準スヘキ施設ニシテ文部大臣ノ指定シタルモノハ本令ノ適用ニ關シ實業補習學校教員養成所ト看做ス

附則(大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ文部大臣ノ認可シタル者ノ公立私立實業學校教員資格ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

附則(昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル



公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

一一〇

### 公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

大正八年七月八日  
文部省告示第九十二號

改正 大正九年三〇七號、一〇年二三八號、一一年一八號

明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

一、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 帝國大學各學部選科修了者
- 帝國大學元分科大學選科修了者
- 官立公立實業專門學校本科卒業者
- 東京高等工業學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
- 元東京工業學校本科卒業者
- 元東京職工學校本科卒業者
- 東京高等工業學校附設工業教員養成所卒業者
- 元東京工業學校機械工藝部特別生ノ課程修了者
- 大阪高等工業學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
- 元大阪工業學校卒業者
- 大阪高等工業學校附設工業教員養成所卒業者
- 東北帝國大學附屬工學專門部卒業者

- 元仙臺高等工業學校卒業者
- 東京帝國大學農學部實科卒業者
- 東京帝國大學元農科大學實科卒業者
- 東京帝國大學元農科大學乙科卒業者
- 東京帝國大學元農科大學附屬農業教員養成所卒業者
- 北海道帝國大學農學部實科卒業者
- 北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部卒業者
- 東北帝國大學元農科大學實科、附屬大學豫科、土木工學科、林學科、水產學科卒業者
- 元札幌農學校土木工學科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
- 元札幌農學校森林科卒業者
- 農商務省所管元蠶業講習所本科卒業者
- 農商務省所管水產講習所本科卒業者
- 東京商科大学豫科、附屬商學專門部、附屬商業教員養成所卒業者
- 元東京高等商業學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
- 元高等商業學校卒業者
- 元東京商業學校卒業者
- 元東京高等商業學校附設商業教員養成所卒業者
- 元高等商業學校附屬主計學校卒業者
- 選信省所管商船學校卒業者 但シ簡易科卒業者及別科卒業者ヲ除ク
- 甲種二等運轉士又ハ一等機關士以上ノ海技免狀ヲ有スル者

公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

一一一



公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

一一二

實業學校教員養成規程第八條ニ依ル學資補給生ニシテ其ノ學校卒業者  
高等學校卒業者

元高等中學校卒業者

官立公立專門學校本科卒業者

千葉醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

岡山醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

金澤醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

長崎醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

東北帝國大學元醫學專門部卒業者

元仙臺醫學專門學校卒業者

東京外國語學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

東京美術學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

東京美術學校元特別ノ課程履修者

東京美術學校圖書講習科卒業者

東京音樂學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス

元高等師範學校附屬音樂學校本科卒業者

元東京音樂學校本科卒業者

學習院高等科卒業者

學習院元高等學科卒業者

神宮皇學館本科卒業者

私立日本體育會體操學校高等本科卒業者

二、小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル

實業學校ノ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル場合ニ限リ實業學校ノ教員タルコトヲ得但シ男子ノ實業學校ニ

在リテハ大正十五年三月三十一日マテニ實業學校教員ノ職ニ就キタル者ニ限ル

【參照】

私立日本體育會體操學校高等本科ハ高等科ト改稱

公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

一一三



# 教員免許令

明治三十三年三月三十一日  
勅令第三百三十四號

改正 大正五年勅令二十二號

- 第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス
- 第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金七圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
- 第十條 前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スルモノハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セズ

## 附則

- 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス



### 實業學校教員檢定ニ關スル規程

大正十一年一月二十四日  
文部省令第四號

改正 大正十一年文部省令第二十八號、大正十二年文部省令第十九號

- 第一條 實業學校教員檢定ハ受檢者ノ學力性行及身體ニ就キ之ヲ行フ
- 第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ實業ニ關スル學科目中ニ就キ之ヲ定メ文部大臣告示ス
- 第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ
- 試驗檢定ノ出願期限ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス
- 第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ其ノ住所地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ其ノ住所地ノ地方廳又ハ當該學校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ
- 一 第二號書式ノ履歷書
- 二 受檢資格ニ關スル學校卒業證書、教員免許狀又ハ認可指令ノ寫
- 三 第五條第一號、第二號、第四號、第五號及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三號書式ノ當該學校長證明書、同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ試驗檢定合格證明書、同條第六號ニ該當スル者ニシテ教員免許狀授與地方廳以外ノ地方廳ヲ經由スル場合ニ在リテハ第五號書式ノ授與地方廳證明書
- 四 第六號書式ノ醫師法ニ依ル醫師ノ身體檢查書
- 地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スヘシ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得
- 一 實業學校又ハ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者
- 二 中學校、高等女學校、高等女學校實科、又ハ實科高等女學校ヲ卒業シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者
- 四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
- 五 徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六號ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者
- 六 小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員又ハ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 七 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者又ハ本令施行前實業學校教員資格ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル者
- 八 外國ニ於テ實業學校、師範學校、中學校又ハ高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
- 九 文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ無試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得

- 一 相當ノ學歷ヲ有シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ五年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
- 二 實業補習學校教員養成所ヲ卒業シ三年以上上教諭ノ職ニ在リ且檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
- 三 實業學校ヲ卒業シ五年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ニ關スル實地ノ經驗ヲ有シ技術優良ナル者
- 四 五年以上實地ノ經驗ヲ有シ實業學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ實習教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
- 五 第五條第一號乃至第八號ニ該當スルモノニシテ教員無試驗檢定ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル學校ヲ卒業シ成績優良ナル者
- 六 實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受



實業學校教員檢定ニ關スル規程

ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者

第七條 試驗檢定ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス但シ豫備試驗ハ便宜之ヲ行ハサルコトアルヘシ

豫備試驗ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

豫備試驗ニ合格シタル者ハ次ノ試驗檢定ニ同一學科目ニ就キ出願スル場合ニ限り豫備試驗ヲ免ス

第七條ノ二 豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ前項試驗ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長官之

ヲ監督ス本試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス

第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ當該檢定ヲ受クルコ

トヲ得ス檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

第九條 本令中實業學校ニハ實業補習學校ヲ包含セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【第一號書式】(用紙美濃紙)

教員檢定願

印紙	收入
本籍地	現住所
受檢資格	

學科目

族稱

氏

年月日生

私備實業學校教員志願ニ付前記學科目ニ就キ(試驗、無試驗)檢定相受度書類ヲ具シ此段相願候也

年月日

右

氏

名

文部大臣宛

【記載注意】一 族稱ハ華士族ニ限り記載スヘシ

二 受檢資格ハ最主要ノ事項ノミテ記載スヘシ

三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ附スヘシ

【第二號書式】(用紙美濃紙)

履歷書

氏

年月日生

學業

一年月日何學校何科第何學年ニ入學、年月日卒業

一年月日何教員免許狀、何教員認可指令受領

業務

一年月日何官職拜命若ハ何業ニ従事、年月日何事由ニ依リ退官職若ハ廢業

賞罰

一年月日何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一年月日何事由ニ依リ何ト改氏名等

實業學校教員檢定ニ關スル規程



實業學校教員檢定ニ關スル規程

以上  
年月日

【注意事項】

- 一 學業ハ受檢資格ニ關係アル事項ニ限り記載スヘシ
- 二 卒業證書、教員免許狀、教員認可指令ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付スヘシ
- 三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限り記載スヘシ
- 四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限り記載スヘシ
- 五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

氏

名 ㊟

【第三號書式】

證明書

本籍

氏

名

右ハ年月日本校何科第何學年ニ入學シ年月日同科ヲ卒業セシ者ナルコトヲ證明ス  
年月日

年月日生

(注意) 學科ノ區別ナキ場合ニ在リテハ科名ヲ記載スルニ及ハス

何學校長氏名 ㊟

【第四號書式】

證明書

本籍

氏

名

右ハ年月日本校ニ於テ施行ノ專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格セシ者ナルコトヲ證明ス  
年月日

年月日生

何學校長氏名 ㊟

【第五號書式】

證明書

本籍

氏

名

右ハ年月日當廳ニ於テ何教員免許狀ヲ授與セシ者ナルコトヲ證明ス  
年月日

年月日生

地方長官氏名 ㊟

【第六號書式】

身體検査書

族籍

何

名

一體格  
一身長

生 年 某 月

實業學校教員檢定ニ關スル規程



- 一 體重
  - 一 胸圍
  - 一 中心視力
  - 一 色盲
  - 一 眼病
  - 一 聽力
  - 一 耳疾
  - 一 呼吸器
  - 一 神經系
  - 一 皮膚
  - 一 言語
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形  
右検査候處相違無之候也
- 年 月 日 検査

住所

醫師 何 某

【別記】

- 身體検査書記載方心得
- 一 検査ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ

- 一 體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長 (センチメートル) <sup>センチメートル</sup>ヲ以テ體重 (キログラム) <sup>キログラム</sup>ヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス
- 中等ト稱スルハ發育營養共ニ普通ニシテ其ノ身長 (センチメートル) <sup>センチメートル</sup>ヲ以テ體重 (キログラム) <sup>キログラム</sup>ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
- 薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長 (センチメートル) <sup>センチメートル</sup>ヲ以テ體重 (キログラム) <sup>キログラム</sup>ヲ除シタル商〇、二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- 中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ (20/x) <sup>センチメートル</sup>ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
- 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アルモノハ何色盲ト記載スヘシ
- 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
- 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- 皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
- 言語ハ明瞭、吃、嘔聲ヲ記載スヘシ
- 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

無試験檢定ヲ爲スヘキ學科目

實業學校教員檢定ニ關スル規定第二條ニ依リ無試験檢定ヲ爲スヘキ學科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

工業ノ部

實業學校教員檢定ニ關スル規程



機械、電氣、土木、建築、採礦、冶金、應用化學、窯業、紡績、色染、圖案、印刷工藝、木材工藝、金屬工藝、機械仕上實習、鍛工實習、鑄工實習、木型實習、造船實習、電機取扱實習、大工實習、塗工實習、測量實習、採礦實習、冶金實習、分析實習、窯業實習、鍍金實習、織物實習、色染實習、紡績實習、製版實習、印刷實習、家具實習、挽物實習、彫金實習、鑄金實習、鍛金實習、髹漆實習、描金實習、木地實習、彫塑實習

農業ノ部

耕種、蠶業、畜産、農藝化學、農業經濟、林業、獸醫、農場實習、蠶業實習、林業實習、蹄鐵實習

商業ノ部

商事要項、簿記、商業算術、商品、商業英語、支那語、珠算、商業實踐、タイプライチング

商船ノ部

航海術、運用術、機關術、運用技業、機關技業

水産ノ部

漁撈、製造、養殖、漁撈實習、製造實習、養殖實習



訓令及通牒



# 實業學校諸規程中改正ノ要旨並施行上ノ注意事項

昭和五年五月七日文部省訓令第十號

北海道廳府縣

今般文部省令第五號乃至第九號ヲ以テ工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程、商船學校規程及水產學校規程中ニ改正ヲ施セリ蓋シ中等實業教育ノ制度ハ大正九年乃至大正十二年ニ改正セラレ今日マテ約十年ヲ經過シタルガ其ノ施行ノ實績ニ徴シ時勢ノ進運ニ鑑ミ改善刷新ノ要アルヲ認メタルヲ以テナリ今左ニ之ガ改正ノ要旨ト施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要トヲ舉示スベシ

## 一 修業年限二年ノ實業學校ヲ認メタルコト

從來實業學校ノ修業年限ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年乃至五年、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年ヲ原則トシ學科ノ種類、土地情況等ニ應ジ適宜之ヲ定メ得ルコトトシテ斟酌ノ餘地ヲ廣クシ努メテ社會ノ要求ニ適切ナラシメンコトヲ期セリ今回更ニ其ノ精神ヲ擴張シテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年ノ實業學校ヲ認ムルコトトセリ近年實業學校ハ年ト共ニ整備セラレ發達ノ途ニアルハ寔ニ喜アベキ所ナリト雖未ダ之ヲ以テ満足スベキニアラズ今後益々之ガ改善振興ニ力メザルベカラズ殊ニ我が國ノ現狀ニ鑑ミ商工徒弟教育並簡易ニシテ實際的ナル農村子弟教育ハ今日ノ急務トスル所ナルヲ以テ從來所謂乙種程度ノ學校ノ最低修業年限ハ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トシ三年ナリシガ更ニ二年ノモノヲモ認メ從來ノ制度ニ依ル學校ト共ニ所謂乙種實業教育ノ普及發達ヲ圖ラントスルニ在リ

## 二 學科目中改正ヲ施シタルコト

實業學校ノ卒業生ハ卒業後直ニ實務ニ従事スルヲ原則トスルヲ以テ國民、公民トシテノ教養ヲ與フルノ必要ヲ

實業學校諸規程中改正ノ要旨並施行上ノ注意事項



認メ前回ノ改正ニ於テ法制經濟ヲ必須科目中ニ加ヘタルガ法制經濟ノ教授ハ多少概念的ノ教授ニ傾キ易ク卒業後直ニ實務ニ従事スルガ如キ者ニ對シテハ尙一層實際的ノ知識ヲ授クル必要アルニ依リ今回之ヲ廢止シ新ニ公民科ヲ特設シ道德的基礎ニ立ツテ政治經濟其ノ他社會生活ニ關スル實際的教育ヲ行フコトトセリ殊ニ普通選舉制度ノ實施セラルル今日ニ於テ立憲自治民トシテノ教養ヲ與フルハ最モ緊要ト認ムル所ナルヲ以テ特ニ之ニ重キヲ置キ公民教育ノ徹底ニ力メントス固ヨリ公民教育ハ單ニ公民科ノミナラズ修身、國語、歴史其ノ他ノ學科目ト互ニ聯絡補シテ以テ其ノ全キ時期スベキモノナレバ之ガ實施ニ方テハ深ク此ノ點ニ留意スルヲ要ス

劍道、柔道等ノ武道ハ實質剛健ナル國民精神ヲ涵養シ心身ヲ練磨スルニ極メテ適切ニシテ從來ノ例ニ徵スルモ既ニ武道ヲ正科トスルモノ尠カラズ其ノ設備等ニ於テモ實施シ易キヲ以テ今回之ヲ體操中ニ含ムルコトヲ明示シ成ルベク必須科目トシテ獎勵セントス

從來商業學校ニ於テ商業實踐ハ商業ニ關スル學科目ニ含メタルガ今回之ヲ抽出シテ獨立ノ地位ヲ與ヘ商業ニ關スル學科目及實踐トシ商業學校ノ總テニ必修セシムベキコトトセリ蓋シ實踐ハ工業學校、農業學校等ニ於ケル實習ニ相當シ生徒ヲシテ事務的獨創力ヲ養ハシメ既ニ習得シタル斷片的知識ヲ自主的ニ綜合統一シ以テ一層確實ナラシメ且經濟交通ノ組織ヲ會得セシムルニ極メテ有効ナルヲ以テナリ而シテ之ガ實施ニ際シテハ周到ナル計畫ト十分ナル指導トヲ必要トスルガ故ニ普通學科目並商業ニ關スル學科目ニ於ケルト同ジク實踐ニ付テモ相當員數ノ教員ヲ置クヲ要スルコトトセリ

經濟現象ノ錯綜シタル今日ニ於テハ單ニ一實業ニ關スル知識技能ヲ授クルノミニテハ其ノ實業ヲ理解スルニ未ダ以テ十分ナリト云フベカラズ之ト關聯シタル他ノ產業上ノ知識ヲ必要トス然ルニ從來加設學科目中ノ實業學科目ニ關シテハ僅ニ工業學校規程中商業大意テ、商業學校及商船學校規程中工業大意ヲ明示スルニ過ギザリシガ今回ノ改正ニ於テ工業學校ニ商業、農業學校ニ工業、商業、水産、商業學校ニ工業農業、水産學校ニ農業、工業、商業ノ科目ヲ特ニ掲ゲ以テ一層實業ノ相關的理解ニ力メシメントス

實業ニ關スル學科目ハ複雑多岐ナルヲ以テ土地ノ情況、生徒ノ性能、卒業後ノ志望等ヲ斟酌シテ其ノ一部ヲ選擇履修セシムルヲ適當トスル場合アルヲ認メ實業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目トナシ得ルコトトシ從來ノ劃一ノ弊ヲ矯ムルノ途ヲ開キタリ

中等實業教育ハ各種實業ニ従事スル中堅人物ノ養成ヲ目的トスルモノナレバ單ニ實業上ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ足レリトセズ常ニ人格ノ陶冶、常識ノ涵養ニ留意シテ堅實ナル國民、善良ナル公民タルニ必要ナル教養ヲ與フルコトニ力メザルベカラズ此ノ點ニ關シテハ前回ノ規程改正ニ於テ最モ意ヲ注ギタル所ニシテ普通學科目ニ付改善セラレタルトコロ尠シトセズ今後ト雖原則トシテハ其ノ方針ニ異ナルトコロナキモ實業學校中ニハ普通學科ノ兼養ハ大體小學校卒業程度トシ主トシテ實業ニ關スル學科目及實習ヲ課スル學校モアリ得ベシ彼ノ商工徒弟教育並簡易ニシテ實際的ナル農村子弟教育ニ於テ特ニ然リトス斯ル社會ノ要求ニ應ズルガ爲今回ノ改正ニ於テハ必須科目ト雖修身、公民科、實業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得シムルコトトセリ本規定ハ極メテ例外的ニ認ムベキモノナルヲ以テ之ガ實施ニ方テハ特ニ留意シ其ノ運用ヲ誤ラザルヲ要ス

三 每週教授時數ヲ減少シタルコト

實業學校ニ於ケル每週教授時間ハ從來ノ規程ニ依レバ學校ノ種類ニ依リテ多少ノ差アレドモ大體實習ヲ除キ三十時以内トシ特別ノ必要アル場合ニ限リ三十三時マテ増加スルヲ認メタルヲ以テ各學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ加フルトキハ三十九時乃至四十二時ニモ及ブモノスラアリテ動モスレバ知識ノ注入ニ流レ生徒ノ獨創的氣魄ヲ喪ハシメ負擔過重ニシテ却テ心身ノ發達ヲ阻害スルノ虞アリ勿論從來ト雖每週教授時數ハ其ノ最高限ヲ示スニ過ギザルヲ以テ各學校ニ於テ任意ニ之ヲ減少シテ定メ得ベキ理ナレドモ實際ハ何レモ規定ノ最高限マテ増加スルノ趨勢ニ在リ故ニ今回實業學校ノ每週教授時數ハ大體實習ヲ除キ二十四時以内トシ特別ノ必要アル場合ニ限リ三十時マテ之ヲ増加シ得ルコトトシ體操(武道ヲ含ム)ハ場合ニ依テハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得シメタリ之ニ依テ教



室内ノ講義ハ大體午前中位ニ止メ午後ハ體育、實習、實驗等ニ充ツルト共ニ自學自習、家事手傳等ノ餘裕ヲ生セシメントスルニ在リ而シテ之ガ實施ニ方リ如何ナル學科目ノ每週教授時數ヲ減少スベキカニ付テハ修業年限、學科ノ種類土地ノ情況等ヲ斟酌シテ適宜之ヲ定ムベキナリ此ノ際特ニ留意スベキハ每週教授時數ヲ減少シタリト雖教育ノ程度ヲ低下セシメザルハ勿論一層教育的效果ヲ擧ゲントスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ教材ノ整理學科目ノ分合、教授ノ方法等ニ付考究ヲ重キ一層教育内容ノ改善ニ力メシムルヲ要ス

四 長期ニ亘ル實習教授ヲ低學年ニ於テモ認メタルコト

實業學校ニ於ケル實習ハ每週學科教授ト併行シテ之ヲ常例トスレドモ學科ノ種類、土地ノ狀況等ニ依リ一定ノ期間實習ノミテ課スルコト適當ニシテ其ノ教育上ノ效果大ナル場合アリ此ノ點ニ鑑ミ前回ノ實業學校規程ノ改正ニ於テ工業學校及水産學校ノ高學年ニ在リテハ一學年ニ付三月以内實習ノミテ課スルコトヲ得シメ特別ノ必要アル場合ニ限リ尙一月以内其ノ延長ヲ認メ、農業學校ニ於テハ高學年低學年ヲ間ハズ一學年ニ付二月以内實習ノミテ課スルコトヲ得シメ高學年ニ在リテハ尙一月以内之ガ延長ヲ認メ又商業學校ノ高學年ニ在リテハ三月以内實地練習ノミテ課スルノ途ヲ開キ實業教育ヲシテ益々實際的ナラシメンコトヲ期シタリ今回更ニ此ノ精神ヲ擴張シテ工業學校及水産學校ノ低學年ニ於テモ一學年ニ付二月以内實習ノミテ課スルコトヲ得シメ高學年ニ於テ特別ノ必要アルトキハ二月以内之ヲ延長スルコトヲ認ムルコトトシ愈々實習教授ヲ重シ其ノ施設ノ範圍ヲ大ナラシメタリ

五 農業學校ニ夜間教授ヲ認メタルコト

實業教育ノ振興ハ我が國目下ノ急務トスルトコロナルヲ以テ一面ニ於テ實業學校ノ増設擴張ヲ圖リ他面ニ於テ設備ノ利用ニ力メ其ノ收容量ヲ大ナラシムルト共ニ晝間勞務ニ服スル者ニ對シ修學ノ便ヲ與ヘ教育ノ機會ヲ均等ナラシムル爲前回ノ實業學校規程ノ改正ニ於テ工業學校、商業學校ニ於テハ既ニ夜間教授ヲ認メタルガ此ノ制度ハ農業學校ニ於テモ土地ノ情況ニ依リ必要トスルモノアルベキヲ以テ今回之ヲ認ムルコトトセリ而シテ夜間ニ互ル農業學校ノ實習ノ時期方法ニ就テハ日没前ニ於テ之ヲ施シ又ハ晝間特定ノ日ヲ定メテ之ヲ行ヒ若ハ家庭實習ヲ

以テ之ニ充ツル等其ノ實施ニ方テハ特ニ留意スルヲ要ス

六 卒業者ニ對スル研究指導ノ施設ヲ爲サシメタルコト

實業教育ノ效果ヲ一層顯著ナラシメ地方産業ニ寄與セシムルニハ學校卒業者等ニ對スル研究指導ニ留意スルコトハ今後ノ學校經營上最モ急務ト認ムルトコロナリ之ヲ實際ニ徵スルモ所謂乙種程度ノ實業學校ニ於テ成績最モ優秀ナルモノノ多クハ専ラ此ノ點ニ主力ヲ注ギタルコトヲ見ルナリ故ニ今回ノ改正ニ於テ工業學校、商業學校、商船學校及水産學校ニ於テハ必要ニ應ジ卒業者等ニ對スル研究指導ノ施設ヲ爲サシムルコトトシ農業學校ニ在リテハ他ノ實業學校ト異ナリ卒業者ノ大部分ハ其ノ土地ニ留リテ産業ニ従事スルモノナルヲ以テ必ズ之ガ施設ヲ爲サシムルコトトセリ卒業者ノ研究指導施設ノ組織内容等ニ關シテハ別ニ之ヲ指定セズ學校ノ種類、修業年限、土地ノ情況等ニ應ジ適切ナルモノヲ選バシムルコトトシタルガ學校卒業後引續キ主トシテ二年又ハ三年間少クトモ一年ニ付一月乃至三月時ノ繁閑ヲ稽ヘテ時期ヲ選定シ卒業者ノ實地ノ體驗ニ基クトコロテ發表セシメ之ヲ批判シ又ハ質疑ニ答ヘ更ニ進ンテ新ナル教養指導ヲ與ヘテ教育ノ效果ヲ實際ニ即セシムルコトニカムルハ最モ適當ナルベシ學校卒業後數年ヲ經過セル者ニ對スル研究指導ハ今回改正ノ直接ノ目的トスルトコロニアラズト雖是等ノ者ニ對シテモ亦此ノ施設ヲ爲スコトハ寧ロ希望スベキトコロニシテ更ニ擴張シテ卒業者以外ノ者ニ及ボスモ敢テ差支ナシ要スルニ卒業者其ノ他ニ對スル研究指導ノ施設ヲ爲サシムルコトハ學校教育ノ效果ヲ全カラシメ地方産業ニ寄與セシメンガ爲學校經營上ノ方針ヲ示セルモノニシテ今回改正事項中最モ重要ナルモノナリ即チ之ニ依テ卒業者教養指導ト地方産業トノ連絡ニ資セシメ眞ニ學校ヲシテ實際生活ニ於ケル教化ノ中心タラシメントスルニ在リ

七 工業學校、農業學校及水産學校ニ第二部ノ制度ヲ認メタルコト

中學校、高等女學校ヲ卒ヘ直ニ實社會ニ出ヅル者多數アル現状ニ鑑ミ是等ノ者ニ對シ主トシテ實業ニ關スル知識技能ヲ授クル施設ヲ爲スコトハ我が國今日ノ狀況ヨリ觀テ必要ナルヲ認メ前回實業學校規定ノ改正ニ方リ商業



學校ノミニ第二部ノ制度ヲ認メタルガ今回更ニ工業學校、農業學校及水産學校ニ於テモ之ヲ認ムルコトトセリ而シテ其ノ修業年限ハ一年ヲ原則トスレドモ必要アル場合ニ於テハ學科ノ種類、土地ノ情況ニ應ジ之ヲ伸縮スルコトヲ得シメ其ノ組織ヲ自由ナラシメタリ

八 特殊組織ニ依ル農村又ハ漁村教育機關ヲ認メタルコト

特殊組織ニ依ル學校トシテハ從來農業學校規程ニ於テ農業ニ關スル事項ヲ專修スル者ノ爲ニ、商船學校規程ニ於テ海事ニ關スル事項ヲ專修スル者ノ爲ニ修業年限二年以内ノ學校ヲ認メタルガ今回更ニ水産學校ニモ之ヲ認ムルト共ニ農業、水産等ノ專門事項ノミナラズ農村漁村ニ關スル事項ヲモ授クルノ趣旨ヲ改メ修業年限、入學資格、教授日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得シメ其ノ機能ヲ十分ニ發揮セシムルコトトセリ蓋シ農業教育及水産教育ハ廣汎ナル農村問題ノ解決ニ關聯スベキモノナルヲ以テ所謂普通ノ農業學校、水産學校等ノ從來ノ型ニ捉ハルルコトナク特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ認ムルコトモ亦斯教育ノ發達上必要トスル場合アルヲ以テナリ特殊組織ニ依ル學校ハ極メテ特別ナル場合ニ限ルモノナレバ之ガ濫設ヲ慎ミ眞ニ教育的價值アルモノタルヲ要ス實業學校規程改正ノ要旨ハ右ニ述アルガ如シト雖改正ノ實績ヲ擧ゲントスルニハ克ク規定ノ精神ヲ理解シ運用其ノ宜シキヲ得ザルベカラズ之ガ爲ニハ教員其ノ人ヲ得又學事ノ指導監督ニ最善ノ力ヲ致サザルベカラズ而シテ教員其ノ人ヲ得ルニハ適任者ヲ選ミ優遇ノ途ヲ講ズベキハ勿論ナレドモ各學校ニ於ケル教員ノ定數ニ付テモ特別ノ考慮ヲ拂ヒ研究見學ニ餘裕アラシメ人格ノ修養ト知識技能ノ練磨ニ力メシメ常ニ教育教授ニ清新ノ意氣アラシムルコトヲ要ス從來動モスレバ實業學校ニ關シテハ教員定數ノ定メナキヲ以テ之ヲ減少セントスルノ嫌ナシトセズ本來實業學校ハ其ノ性質上組織編制複雜ニシテ學級數ニ依リ一律ニハ規定シ難キヲ以テ特ニ教員定數ヲ定メテ專ラ地方當局ヲシテ周密ナル考慮ヲ拂ハシムルノ趣旨ニ出アタルモノナリ又學事ノ監督ニ關シテハ道府縣ニ於ケル實業教育ニ關スル視學制度ノ整備ハ目下ノ急務トスルコロナルヲ以テ視學定員數ノ多寡ニ應ジ相當員數ノ實業及實科ニ關スル專任者又ハ分擔者ヲ定メ以テ道府縣内ノ實業及實科ニ關スル教育ヲ統一的ニ調査研究シ之ガ指

導監督ニ當ラシムルハ頗ル望マシキコトナリトス

今ヤ實業學校諸規程ノ改正ニ方リ地方長官ハ克ク改正ノ趣旨ヲ體シ指導監督其ノ宜シキヲ得テ教育ノ局ニ當ル者ヲ鼓舞獎勵シ以テ今後一層我が國實業教育ノ振興ニ力メラルベシ



### 實業學校修身教授要目

昭和六年四月二十三日  
文部省訓令第十三號

北海道廳府縣

明治四十四年文部省訓令第十六號甲種程度ノ實業學校修身教授要目ヲ廢止シ今般實業學校修身教授要目左ノ通定ム地方長官ハ宜シク各學校長ヲシテ本要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ修身教育ノ徹底ヲ期セラ  
ルベシ

#### 實業學校修身教授要目

修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ鞏固ナル意志ヲ鍛練シ殊ニ我が國體ニ關スル信念ヲ養ヒ以テ健全有爲ナル國民タラシメントテ期シ實踐躬行ニ導クヲ以テ要旨トス  
低學年ニ於テハ主トシテ個人・家庭生活・社會生活・國家生活・國際生活ニ關スル道德ノ要領ヲ授ケ其ノ歸趨ヲ教育ニ關スル勅語ヲ始メ戊申詔書・國民精神作興ニ關スル詔書ニ求メテ特ニ我が國體ノ尊嚴ナル所以ヲ會得セシメ忠君愛國ノ大義ヲ明ニシ國民道德ニ對スル信念ヲ鞏固ナラシメ且我が國ノ世界的地位ヲ自覺セシムルコトニカムルモノトス

高學年ニ於テハ道德ノ原理・社會ノ原理ヲ授ケテ特ニ國民道德ノ根據ニ對シテ確信ヲ與ヘンコトヲ旨トシ又國民道德ノ特質ヲ十分明確ニ悟ラシムルト共ニ現代思想ニ對シテ正シキ批判力ヲ養ハントニカムルモノトス

#### 低學年

國民精神作興ニ關スル詔書  
道德ノ要領

#### 個人

鍛練 攝生 常識 創造 快活 敬虔 勇氣 忍

#### 生徒心得

教育ニ關スル勅語

戊申詔書

耐 自律 忠實 節操 勤勞 儉素等

家生活

家 祖先 親子 夫婦 兄弟姊妹 親族 雇人等

社會生活

協同 職業 信用 責任 正義 秩序 禮讓 公

益 感恩 同情等

國家生活

國體 天皇 皇室 忠君愛國 忠孝一致 國意國

法等

國際生活

親善 協力 信義 禮節等

作法

起居動作 服裝 訪問應接 食事及響應 集會 通

信及交通 慶弔等

#### 高學年

注意

- 一 修身ノ教授ハ單ナル知識ノ授受ニ終始セズ生徒ノ自覺ヲ喚起シ道德的信念ヲ養成スルコトニ力メ特ニ訓練ニ依リテ生徒ヲ實行ニ導クコトヲ要ス
- 二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想、年齡、生活經驗等ニ適應セシメ實業ニ從事スル者ニ適切ナラシメントテ要ス
- 三 修身ノ教授ハ常ニ教師ト生徒トノ人格的接觸ニ依リテ其ノ效果ヲ擧グルコトニ留意スベシ

實業學校修身教授要目

道德ノ原理

行爲 品性 良心 人格 至善 本務 德

社會ノ原理

社會ノ發生及發達 社會意識 風俗慣習 社會制度

社會連帶 輿論 社會福祉

國民道德

我が國道德ノ由來

我が國民性

教育ニ關スル勅語ノ精神

國民道德ノ特質

我が國民ノ使命

現代思想ノ批判

作法

起居動作 服裝 訪問應接 食事及響應 集會 通

信及交通 慶弔等



實業學校修身教授要目

一三四

- 四 女生徒ニ對シテハ貞淑、謙讓、温情、純潔、優雅等女子ニ必要ナル諸徳ヲ養フコトニ注意スベシ
- 五 作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ之ヲ授クルニハ特ニ時間ヲ設ケズシテ各教材ヲ授クル際便宜併セ課スルモ可ナリ
- 六 教訓ニ資スベキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スベキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スベシ
- 七 本要目ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校ニ於テ各學年每週一時以上教授スルヲ標準トシテ編纂セリ隨ツテ學校ノ種類、修業年限、學級ノ編制、土地ノ情況等ニ應ジ適宜之ヲ斟酌運用スベシ

實業學校公民科教授要目

昭和六年一月二十日  
文部省訓令第三號

北海道廳府縣

今般實業學校公民科教授要目左ノ通之ヲ定ム地方長官ハ宜シク各學校長ヲシテ本要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ公民教育ノ徹底ヲ期セラルベシ

實業學校公民科教授要目

第四學年

要目

備考

一人ト社會 一人ト社會

一共同生活ト共存共榮

一國家ノ重要意義

二我ガ家 一家庭生活

一我が國ノ家族制度

一戶主・家族

一親族・婚姻

一戶籍・相續

三一家ノ生計 一一家ノ收入

一一生計費

一勤儉貯蓄・保險

四職

業

一財產

一職業ト人生

一職業ノ選擇

一勤勞ト研究

一職業ト道德

五教 育 一人ト教育

一家庭教育

一學校教育・義務教育

一社會教育

六神 社 一神社

一敬神崇祖

七宗 教 一宗教

一信教ノ自由

八公 安 一警察ト公衆

新聞雜誌等

實業學校公民科教授要目

一三五



實業學校公民科教授要目

一三六

九地方自治

- 一 災害防止
- 一 公衆衛生
- 一 地方自治ノ沿革
- 一 地方自治ノ精神
- 一 我々郷土

愛郷ト愛國

二〇市 町村

- 一 市町村ノ自治
- 一 公民
- 一 議員ノ選舉
- 一 市町村會
- 一 市役所・町村役場
- 一 市町村ノ財政
- 一 市町村ノ財産

二一貨幣及金融

- 一 產業ト國民經濟
- 一 農業
- 一 工業
- 一 商業
- 一 其ノ他ノ産業

農業・工業・商業等ノ任務・要素・企業形態・産業組合・産業助成機關

二府 縣

- 一 府縣ノ自治
- 一 府縣廳
- 一 我々府縣

三農村ト都市

- 一 農村ト都市
- 一 農村生活
- 一 農村ノ開發
- 一 都市生活
- 一 都市ノ改善

要目

- 一 國家
- 一 人類ト國家
- 一 國家ノ要素
- 一 國體ト政體
- 一 我々國家
- 一 天皇
- 一 皇位繼承

備考

交通道德

詔勅

八裁 所

- 一 司法
- 一 裁判所
- 一 訴訟・調停
- 一 陪審

八國 防

- 一 國防
- 一 兵役
- 一 我々國ノ軍備

二〇國 交

- 一 國防ト國民
- 一 國交
- 一 條約

二財 政

- 一 國際協同
- 一 國交ト國民
- 一 歲入ト歲出
- 一 租稅
- 一 官業
- 一 公債

三我 業

- 一 我々國ノ産業
- 一 我々國ノ貿易
- 一 資源ノ開發

三立憲政治

- 一 皇室典範
- 一 皇室及皇族
- 一 皇室ト臣民
- 一 立憲政治
- 一 帝國憲法
- 一 臣民ノ權利義務

四帝國議會

- 一 帝國議會
- 一 議員ノ選舉
- 一 議會ノ作用
- 一 政黨

五國務大臣

- 一 國務大臣
- 一 內閣
- 一 樞密顧問

六行政官廳

- 一 行政官廳ノ種類
- 一 行政官廳ノ種類
- 一 官吏

七國 法

- 一 國法ノ種類
- 一 國法ノ尊重
- 一 法ト道德

實業學校公民科教授要目

一三七



實業學校公民科教授要目

一三八

- 三人口ト國土 一人口ト國土
- 一拓殖ト移住
- 一海外發展
- 一社會改善 一社會問題
- 一社會政策
- 一社會事業
- 一社會改善
- 一五世界ト日本
- 一人類文化ノ發達
- 一文化史上ノ我が國ノ地位
- 一我が國ノ使命

我が領土・租借地・委任統治ノ地域

本要目實施上ノ注意

- 一 公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活並ニ社會生活ヲ完ウスルニ足ルベキ知徳ヲ涵養シ殊ニ遵法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會得セシメ公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成スルヲ以テ要旨トス
- 二 教授ハ事例ヲ成ルベク日常生活ニ於ケル經驗ニ求メ理論ニ偏セズシテ實際ヲ主トシ道德的情操ノ陶冶ニ力ムベシ
- 三 本要目ニ掲ゲタル事項ハ修身、國語、歴史、地理、實業其ノ他ノ學科目ト聯絡裨補シテ教授スルコトヲ要ス
- 四 本要目ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校ノ第四學年及第五學年ニ於テ每週二時教授スルヲ標準トシテ編纂セリ隨ツテ學校ノ種類、修業年限、學級ノ編制、土地ノ情況等ニ應ジ適宜之ヲ斟酌運用スベシ

一、實業學校學則ニ關スル件依命通牒

大正十年三月十七日

實業學務局長

各地方局長官宛

今般工業學校、農業學校、商業學校等ノ規程ガ改正セラレ新規程中之ニ依リ難キ學校ニ於テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルヲ得ルコトトナツテ居リマスガ規程改正ノ精神ハ成ルベク速ニ新規程ニ依ル様致度イノデアリマスカラ事情已ムテ得ザルモノヲ除外大正十年度内ニ各學校ノ學則ヲ改正整備セシムル様御取計相成度尙之ニ關シ左記ノ事項御了知相成度

記

- 一、學則中ニハ必ズ工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程、職業學校規程又ハ實業補習學校規程等ニ依ル旨ヲ明記スルコト
- 尙農業學校規程第十八條ニ依リ設置スル學校ニ付テハ學則中ニ同條ニ依ル旨ヲ明記スルコト



二、實業學校ノ修身年限、入學資格並學科ノ變更ニ關スル件依命通牒

一四〇

### 一、實業學校ノ修業年限、入學資格並學科ノ變更ニ關スル件依命通牒

大正十年三月十七日(發實四二號)

實業學務局長

各地方長官宛

今般實業學校ニ關スル諸規程ヲ改正セラレタ結果、實業學校ノ修業年限入學資格等ノ變更ノ手續ガ從來ヨリ簡易ニナリマシタガ、徒ニ修業年限ヲ延長シ又ハ入學資格ヲ高ムルモ其ノ規模内容ガ之ニ伴ハナケレバ新教育ノ健實ナル發達ヲ期スル所以アナイノテ、右ノ場合ハ慎重ナル調査ヲ要スル次第アリマスカラ、今後實業學校ノ修業年限ヲ延長シ又ハ入學資格ヲ高メントスルトキハ左記事項ヲ具申スル様御取計相成度  
追テ學科増設ノ場合モ之ニ準シ御取計相成度

記

- 一、變更ノ爲新ニ設ケントスル土地、建物(面積ヲ記載シタル圖面但シ現在ノ土地建物ヲモ示スコト)
  - 二、變更ノ爲新ニ備ヘントスル器具、機械、圖書、標本等(購入費豫算額ヲ記載スルコト)
  - 三、變更ノ爲新ニ採用セントスル職員數(專任兼任別)及變更後ノ教員俸給豫算平均額
  - 四、變更後ノ經常費及臨時費豫算出豫算表
- 完成ニ數年ヲ要スル場合ニハ前各項トモ各年度別ニ記載スルコト

### 三、公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程 中改正ニ付依命通牒

大正十年三月二十五日(發實四四號)

實業學務局長

各地方長官宛

大正九年十二月十八日文部省令第三十四號ヲ以テ標記ノ件改正ニ付左記ノ事項御了知相成度

- 一、規程第二條ノ二ノ精神ハ實業補習學校ノ實業科目擔任教員ヲ總テ第二條該當者ノミニ求ムルハ土地ノ情況ニ依リ困難ナ場合モアリ又科目ニ於テハ第二條ノ資格ヲ有セザルモ特殊ノ技能アル者ニ之ヲ受持タシムルヲ適當トスルコトアルベキニ依リ實業ニ關シ特殊ノ知識經驗ヲ有スル者ニハ、特ニ其ノ資格ヲ認ムルコトトナツタ次第アリマスカラ之ガ認可ニ就テハ十分慎重ニ審査セラルベキコト
- 二、實業學校令並公立學校職員制改正ノ結果公立實業補習學校ノ教員ハ他ノ實業學校ノ教員ト同様教諭又ハ助教諭ト稱スルコトトナリマシタガ規程第四條ノ二中第三號及第四號ニ該當スル者ヲ教諭ト爲ス場合ハ單ニ其ノ在職年數ノミニ依ラズ既往ノ成績等ヲモ參約シ慎重ニ銓衡セラルベキコト
- 三、附則第四項ニ依リ相當斟酌シ得ル助教諭ノ在職年數ニ關シテハ既往ノ在職年數ノ凡ソ二分ノ一マテ加算スルコト
- 四、實業補習學校教員養處所ニ準ズベキ施設ニシテ附則第五項ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左記ノ事項ヲ具シ申請スルコト

名稱  
位置

三、公立實業學校教員資格ニ關スル規程中改正ニ付依命通牒

一四一



三、公立實業學校教員資格ニ關スル規程中改正ニ付依命通牒

一四二

沿革

規則(創立以來規則ニ變更アリタルトキハ變更前ノ規則ヲモ添付スルコト)

生徒定員及生徒數

最近年度ノ經常費豫算

職員ノ氏名、資格、學業經歷、擔任學科目及專任兼任ノ別

創立來毎年度卒業者ノ員數及卒業者現在ノ情況

#### 四、小學校卒業者ノ上級學校入學ニ關スル件 依命通牒

昭和五年一月十日

文部次官

小學校卒業者ニシテ上級學校ニ進ムモノ逐年増加ノ傾向ニアルハ喜フヘキ所ナリト雖從來動モスレハ自己ノ性能環境ヲ顧ミス漫ニ中學校、高等女學校ニ志望スルノ風アリ小學校當事者ニ於テモ兒童ノ實業學校ヲ志望シタル場合ニ於テストラ往々強ヒテ中學校、高等女學校ニ入學ヲ勸奨シ斯ノ風ヲ助長スルノ嫌アルハ遺憾ノ義ニ有之殊ニ我國現下ノ産業經濟ノ情勢ニ照シ又國民將來ノ生業ニ鑑ミ一層實業教育ノ振興ヲ圖ルノ要アル次第ニ付管下小學校職員ヲシテ能ク這般ノ事情ヲ了得セシメ昭和二年文部省訓令第二十號ノ趣旨ニ基キ一層兒童ノ學校選擇ニ關シ適正ナル指導ヲ與ヘ特ニ中等學校卒業後實務ニ就カシムルヲ適當ト認ムルカ如キ者ニ對シテハ實業學校入學ヲ勸奨セシムルヤウ此ノ際十分御配慮相成度此段依命通牒ス

四、小學校卒業者ノ上級學校入學ニ關スル件依命通牒

一四三



### 五、實業學校設置書類進達期日ニ關スル件 依命通牒

昭和七年六月十五日(發實二九號)

實業學務局長

實業學校設置ニ關スル申請書類ノ進達期日ハ從來學年ノ始期ヨリモ遲延シ往々四月以後ニ及ブモノアリ斯ノ如キハ當該學年ニ於ケル授業日數ノ減少ヲ來シ教育上遺憾不尠ニ付爾後貴管内ニ於テ實業學校設置ノ計畫アルトキハ其ノ申請ハ遲クトモ開校スヘキ年ノ三月三十一日マデニ御進達相成様致度尙已ムテ得サル事情ニ依リ右期日ニ後ル、モノニ在リテハ其事由ヲ具シ四月十五日マデニ本省ニ到達スル様書類御進達相成度右猶預期日ニ後レタル場合ハ證據相成難キ見込ニ付御了知ノ上貴管内へ豫メ周知方御取計相成度  
追テ修業年限、入學資格、生徒定員、又ハ學科ノ變更ニ關シテモ右ニ準シテ御取計相成度

昭和七年八月一日印刷  
昭和七年八月五日發行

定價金三十錢

## 文部省實業學務局編纂

東京市神田區錦町一丁目十八番地(錦ビル内)

農業學校圖書刊行會

發行兼印刷人 高宮政人

東京市神田區錦町一丁目十八番地(錦ビル内)

印刷所 農業學校圖書刊行會印刷部

東京市神田區錦一丁目(錦ビル内)

發行所 農業學校圖書刊行會

電話神田二四三六番  
振替東京三五九六一番







272.5  
40





NO.

PATENTED NO. 119016

"F-M"

**PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. ,, x	18.5 ,, x	1 ,,
853(菊)	22.5 ,, x	15. ,, x	1 ,,
854(四六)	18.5 ,, x	12.5 ,, x	1 ,,
855(特)	24. ,, x	15. ,, x	1 ,,

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

**F. MAMIYA & CO.**

OSAKA-TOKYO-FUKUOKA



1